アタゴオルは猫の森

ATAGOAL is Cat's Forest

12

ますむら・ひろし



MFコミックス フラッパーシリーズ

MEDIA FACTORY

ISBN978-4-8401-1987-0
C9979 ¥514E

定価：本体514円（税別）
雑誌52645-87
メディアファクトリー

古の大噴火で埋もれた街、
そこでヒデヨシが見つけたものは？『コッパル』。
梅雨の時期、ヒデヨシの好物はカタツムリ。
でも懸賞金がかかったカタツムリが…『ハリハリ蝸牛』。
アタゴオルの森に突如として
絵画ブームが到来！その真相は？『ガモンガ』。
などヒデヨシとその仲間たちが繰り広げる
不思議なお話8話篇と
作者書き下ろしの解説を収録。



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
昭和48年、第5回手塚賞
準入選作『霧にむせぶ夜』で
『週刊少年ジャンプ』にてデビュー。
青林堂に入り『ガロ』で活躍し、
その後も『アタゴオル』をはじめ
次々と作品を各誌で発表する。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも取り組み、
『銀河鉄道の夜』が劇場アニメとして
昭和60年に公開され話題を呼んだ。
現在『月刊コミックフラッパー』にて
『アタゴオルは猫の森』を連載中。
平成18年10月『アタゴオルは猫の森』が
劇場アニメとして公開された。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

アタゴオルは猫の森

12

ますむら・ひろし

ATAGOAL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 ⑫

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 ⑫

ATAGOAL is Cat's Forest

第一話　コッパル 前編




あ〜〜〜っ
気んもちいーーっ
おんや？
見かけない顔だなあ
借金取りか……？
んっ


ねえねえ
アンタたち
なにやってんの？
この火山草の車は
そなたのものですか
ああ
そなたのものだよ
これは走りますか
走るつーか飛ぶよ
飛ぶっ？
ホホホ


素晴らしい
申しおくれたが私はゲホゴンガ火山局のモジロ博士で
私はブッコ伯爵ですじゃ
オレはヒデヨシだよ
ところで粉雪亭はどの辺にあるのですか
その店昨日つぶれたよ
えっつぶれた!?


ウソだよ──っ
ヤニ・パンツです
モジロです
「鳥霧山地層分析」読みましたが 火砕流の考察 感動しました
どうも
実は お願いというのは……
これ なんですが…
フーム…
「パゲ・モウ ドンプ・ドン」


古代ベズリ語で「東に 35 赤尾」
素晴らしい
さすがにうわさ通りの言語通
私たちの調査にお力を
いいですよ
そろそろスミレ時間では？
うーーっ
いつもズボンの内側に用意してるのにズボンない
貸しましょうか？
へっ
前に忘れていったのが3組くらいあるのです


よっ
お待たせ
ポン
え？
パンツ君にはスミレ博士がついてるのじゃよ
3日後
あ〜〜っ
まだつかねーのかよォ飽きたのよーっ
頼みもしないのについてきていつも文句言ってるな
おっアレです
あっ


キャーーーッ
凄い遺跡だ
ここいら一帯は昔から
我がブッコ家の領地でね
8年前地中に埋まってるのが発見されたんじゃ


どうして埋まってたのかのう
あの山
ゲホゴンガ山の大噴火で町が埋まったのだよ


カッコいーーっ
埋めろーっ埋めろっ
みな埋めろーっ
なんか変なのが来たなあ
この間 見ていただいた文字が
コレなんです
フーム
「東に 35 赤尾」…
…ということは
東に 35歩行って…
34
35


この辺だが……
赤尾かあ
なんのことだろう
フーム　見当も
つきませんなあ
らっ
おっほっほっ
うーーい
気んもち
え〜〜〜っ
露天風呂か
おっ



(注)アンペタレ＝豆猫族の言語で「バカモノ」の意味


そうじゃ
しかも
長ーく入るのじゃ
尻尾が
赤くなる
までな
へっ？
……
それで
どうなるの
それが
赤尾じゃ
これが正解
なのよ
やっぱり
聞くだけ
ムダでした
でしょう
フーム…
赤尾かあ
このあたりに
なにか
あるはず
なんだが…
んっ
なんだアレは


へーーっ
石のピアノだ
ほう ほう
ぐい
動かないぞ
らっ


古すぎて鍵盤が固まっているのさ
ワチャンタという古代の職猫が作ったと言われてる
ワチャンタ!?
パンツさんなにか知っているのかね
どこかで聞いたことがあるんですが…
想い出すのじゃパンツ褒美に酢ダコ食わせるぞ
わははは
飲みますっ食べますっ調べますっ


ワチャンタなんか知らなくったって赤尾のナゾはすでにワシが解いたのじゃ
諸君 飲もう 大いに飲むべしっ
翌日
らっ
あの山 煙噴いてるぞ
ゲホゴンガ火山だよ 昨日 聞いたろう
あの山が大噴火して この町が埋まってしまったって
いー話だよなあ〜〜っ
もう一度大噴火しろーーっ

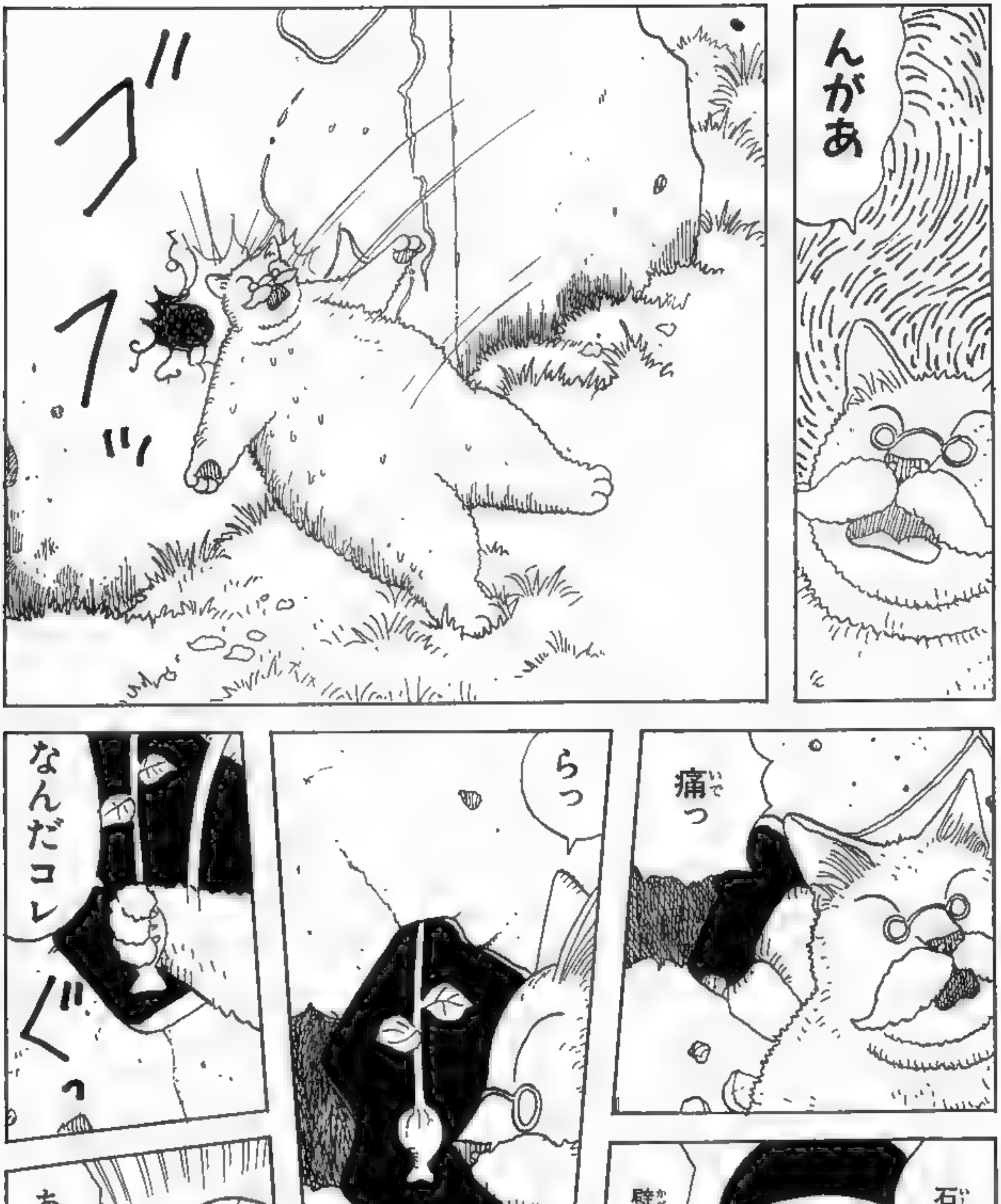


ところで パンツ君
なにを やっとるのじゃ?
赤尾を 探してるのさ
赤尾なら 見せて やろう
こうやって
うむむ 熱い…
シューーッ
パンツさん それは いったい?
発掘用の クッキリ花粉 です
あっ


ああ
壁画だっ
消えていたのが浮かんできた
この猫の尾赤いぞっ
これが赤尾かっ
熱ーーっ
ワシの尾っぽの苦労はどうなるのじゃい
あれっ
文字だ

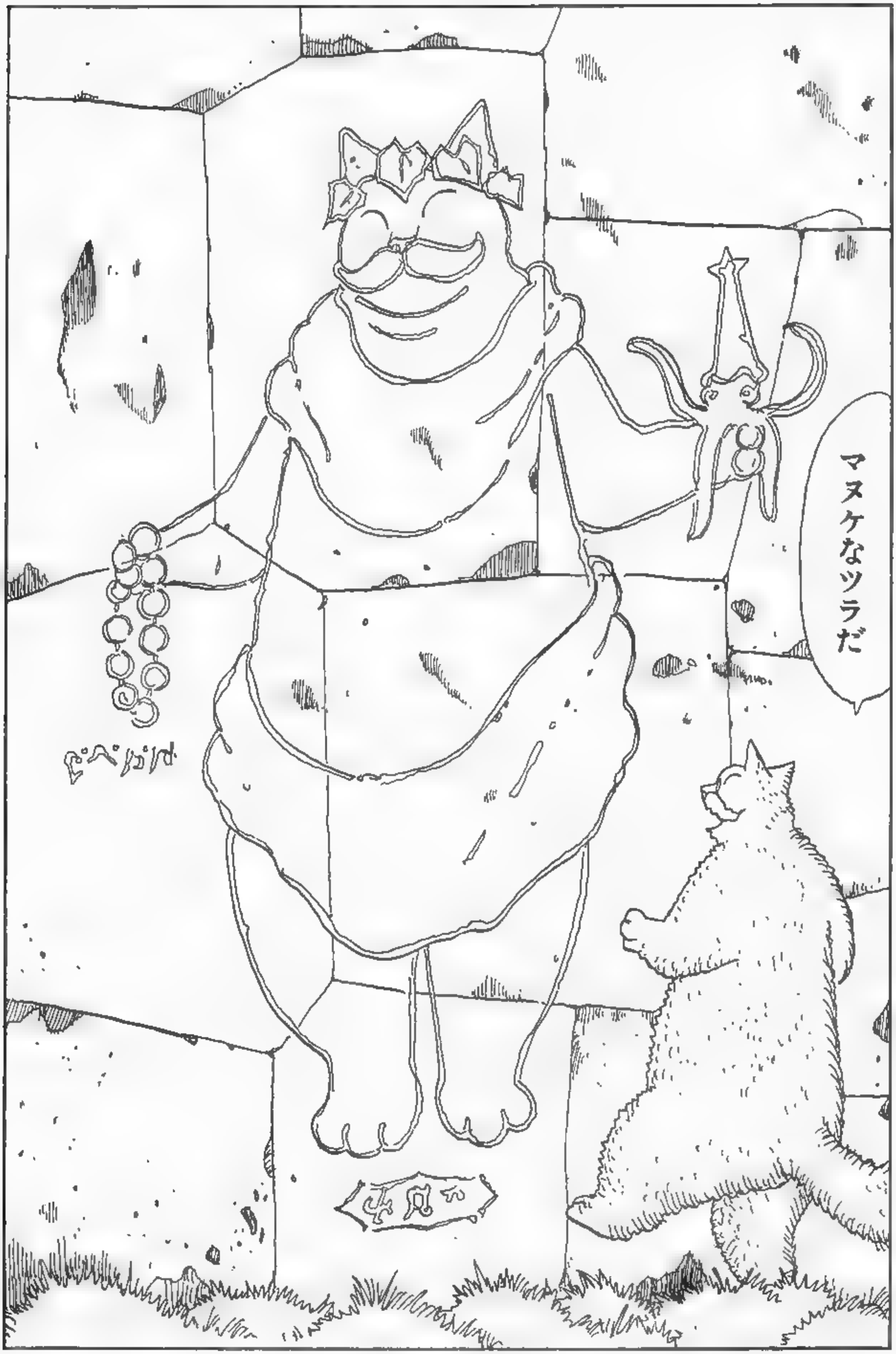

「バラエ・グミラエ・ポスゴス・ニュゴラ…」
おお 我が弟子よ どういう意味じゃ？
「この町一番の働き者ワチャンタよ 母が大いに笑う時 コッパルへと至る」
コッパルって なんだろう
聞いたことのない古代語だ
この町一番の働き者だと…
おまえと正反対の男だな
「働き者」…実に寒気のする言葉じゃ
ワチャンタとやら ろくなもんじゃないのう


コッパル…どんな意味だろう
ブッコ伯爵君 文字なんかにこだわってはイカン
直感だけが研究の迷路をブチ越えて行くのじゃいっ
コッパルの意味 解いた者に金貨70枚出そう
解きますっ 解きますっ
キャー
うっ
なんだか目が回るぞ うぅっ
湯あたりだろ
あんまり長湯するから


んがあ
ゴン
痛っ
らっ
なんだコレ
ぐっ
石頭だなあ
壁に穴が
あっ


ありゃりゃりゃ
ゴゲゲゲ
隠し部屋だ
赤尾って……
赤い尾の部分にしかけがあったのか
ど——だっ
すべてはワシの長湯のおかげじゃぞっ
これが文字を超えた直感の力っ
フエフエ
部屋の中にはなにがあるのかな
ん


お宝めっけ
水晶球だな
あれっ
どうやらこの壁画の男がワチャンタだな
えっ
これがあの古代ピアノを作った……!!
なにーっ
この男が働きまくり男だとォ
フッ
いかにも


マヌケなツラだ

第二話　コッパル 後編




このツラがマヌケねえ…
あー見るからにバカヅラだ
アンタよく言えるなそんなこと
なんでじゃ？
しっかり見てみっ
アンタそっくりじゃないか
ププッ
なにをすっとぼけたことを

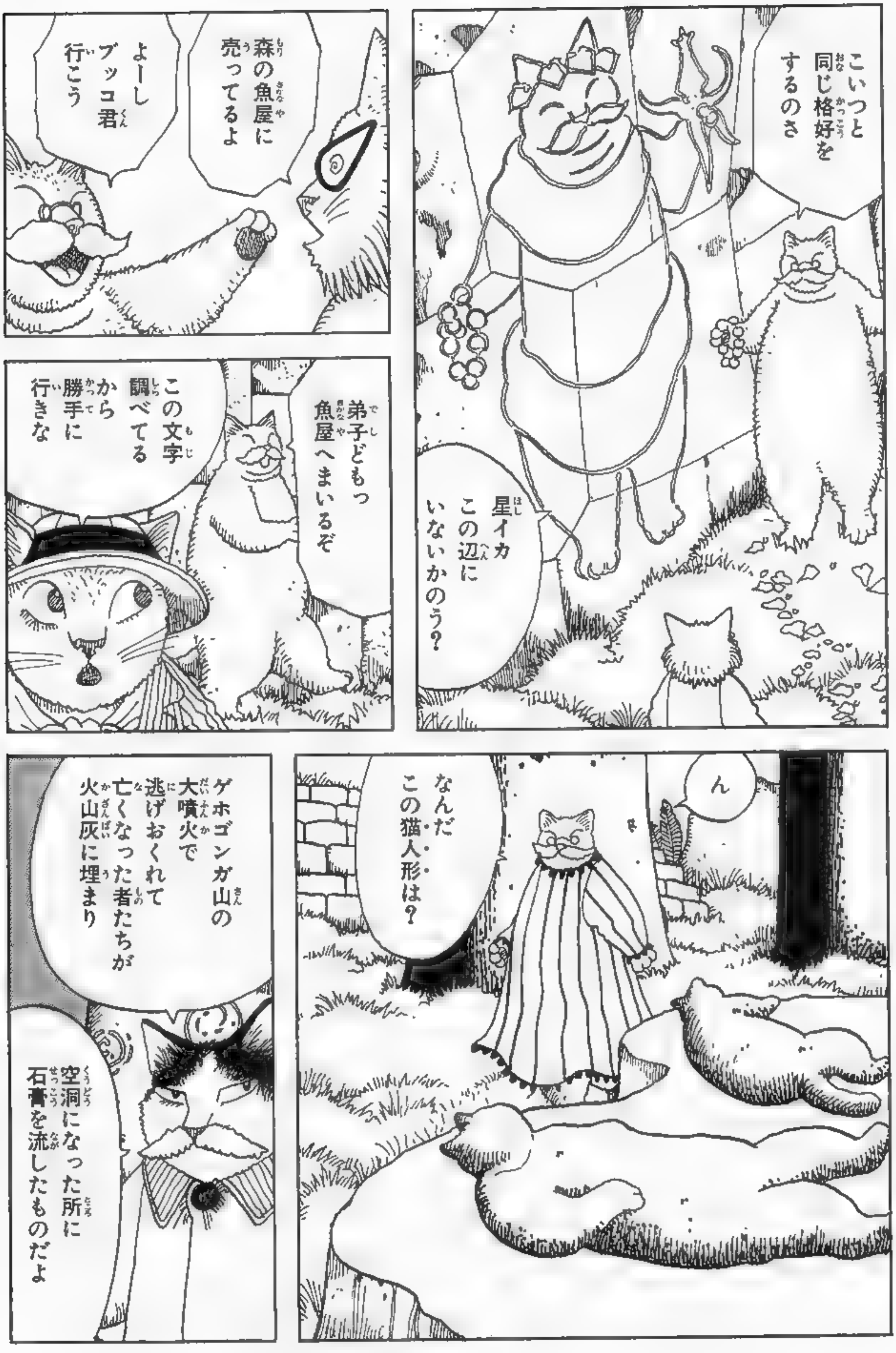

ぜんぜん似とらんっ
他猫にもほどがある
識別能力無し
まったく
この壁画のワチャンタアンタと同じ水晶持っているな
この水晶球もいいけれどスミレ学的に言えば
こっちの星イカが気になる
パンツさんこの文字はなんと？
「ペズウ・ドニ
ペズウ・モゲ
血の道・
血の鏡」
どういうことだ？



これが血の道…血の鏡？
ちょっと貸してくれ
まさかかっぱらったりしないだろうな
おまえと一緒にするな
ほほほっ じゃあ ホラよ
うわっ
重いっ
らっ
ドス
なんだ コレ
めちゃくちゃ重いぞ
ホントだっ なんでこんなに重いんだ
この水晶球変だな



なにが不思議なもんかい
ホーレ軽いわよォ
凄い
ただの肥満体と思っていたが…
あれっ
ここにも文字があるぞ
よごれていてよく見えないな
まーーた文字かい
文字なんか読めなくとも研究はできるのよ
スミレ学派は形で行くのじゃ
形で行く？


こいつと同じ格好をするのさ
星イカ この辺にいないかのう？
森の魚屋に売ってるよ
よーし ブッコ君 行こう
弟子どもっ 魚屋へまいるぞ
この文字 調べてる から 勝手に 行きな
ん
なんだ この猫人形は？
ゲホゴンガ山の 大噴火で 逃げおくれて 亡くなった者たちが 火山灰に埋まり
空洞になった所に 石膏を流したものだよ



逃げおくれるとは
ノロマじゃのう
あんな遠くの
火口なのに
甘いな
スミレ君
火砕流が
来たんだよ
カサイ…？
熔岩が粉々になって
高温のガスと一緒に
なだれ落ちてくるのだ
一瞬にして
あの世行きだよ
誰ものがれることは
できない
ホッホウ
ワシは
のがれて
みせるわよォ
んっ
「母は永遠を生き
血は湧き 血は流れる」
「私は先祖が作った
水晶球を手に入れた」


「私以外 誰も重くて持てなかった」
「何故 私だけが軽々と持てたのか」
「それはゲホゴンガ山の大噴火を心底私は見たいと思っていたからだ」
星イカ一ぱいおくれーっ
なんだって
どうりでアイツ持てたんだ!!
おやブッコさん おひさしぶり
星イカ 一ぱいだね
ホラよっ
ブッコ君 ワシは現金を持たない派なのじゃ 払ってくれたまえ
貧しい奴め


しーん
どうじゃ？みるみる変化が起こったろう
別に変わったことなどないぞ
お主がバカにしか見えないが…
バカでけっこう
学者なんてものは他猫から見たら大バカなのよっ
そしてバカだけが新たなものを発見するのじゃ
……それにしても


イカ食いてぇ
凄いヨダレ
粘着質の溶岩みたいだ
ヨダレを流して
ガマンしてもなんにもならんイカ食らうべし
ヒデヨシーッどこだあ
ヒデヨシーッ
なにがヒデヨシじゃワシはスミレなのよっ
んっ

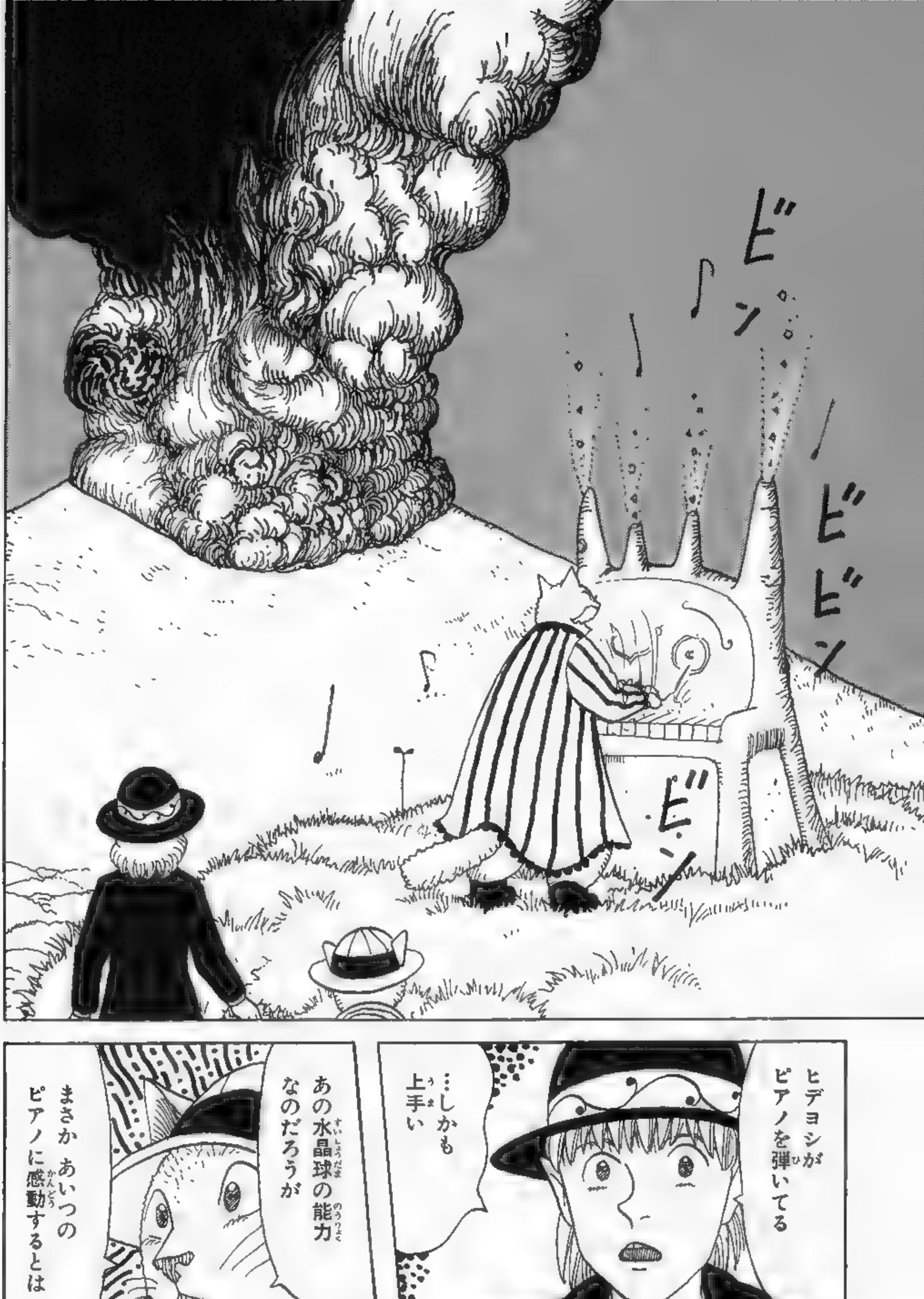

なんじゃこりゃあ?
ヒデヨシ その水晶球早く捨てろっ
輪が見えるのか!?
輪ーっ
赤く輝いてるぞ
ぬっ


ズオッ


あっ
噴いたっ
キャーーッ
噴火なのよ〜〜〜っ
あら
イカ投げたっ
ああっ
噴火したっ
フホホホッ
なんだ
コイツの
体から
蒸気が噴いてるぞ


その水晶球のせいなんだっ
球の中で真っ赤に輝いてる
これっ熔岩じゃないかっ
「血の道 血の鏡」…
血って熔岩のことなのか!?
ああ…「母は永遠を生き 血は湧き 血は流れる」
母とはたぶん火山…あるいはこの星そのもの
「この町一番の働き者ワチャンタよ 母が大いに笑う時 コッパルへと至る」
「母が大いに笑う」とはこの大噴火のことだ
すると…■ッパルの正体が解るのかっ


ああっ 働き者のワチャンタならぬ 怠け者のヒデヨシが案内してくれるだろう
ぐるぐるぐるぐる
みんな輪だらけなのよお
どこへ行くんだっ
ズゴッ
輪しか見えないぞォ ぐるぐる
にゃあ〜っ
あっ


ビン
ビビン
ビン
ヒデヨシがピアノを弾いてる
…しかも上手い
あの水晶球の能力なのだろうが
まさか あいつのピアノに感動するとは


ズウ
見ろっ
熱雲
火砕流だっ
あっ
こっちに
向かって
湧いてくる
嫌だあ
焼き猫に
なりたくねえ
逃げるのよォ
あ〜〜〜っ手が
離れないわあっ
ヒデヨシ君は
おいて逃げましょう
ダメーーッ
焼き猫禁止ーっ
助けて
くれえ
無理だ

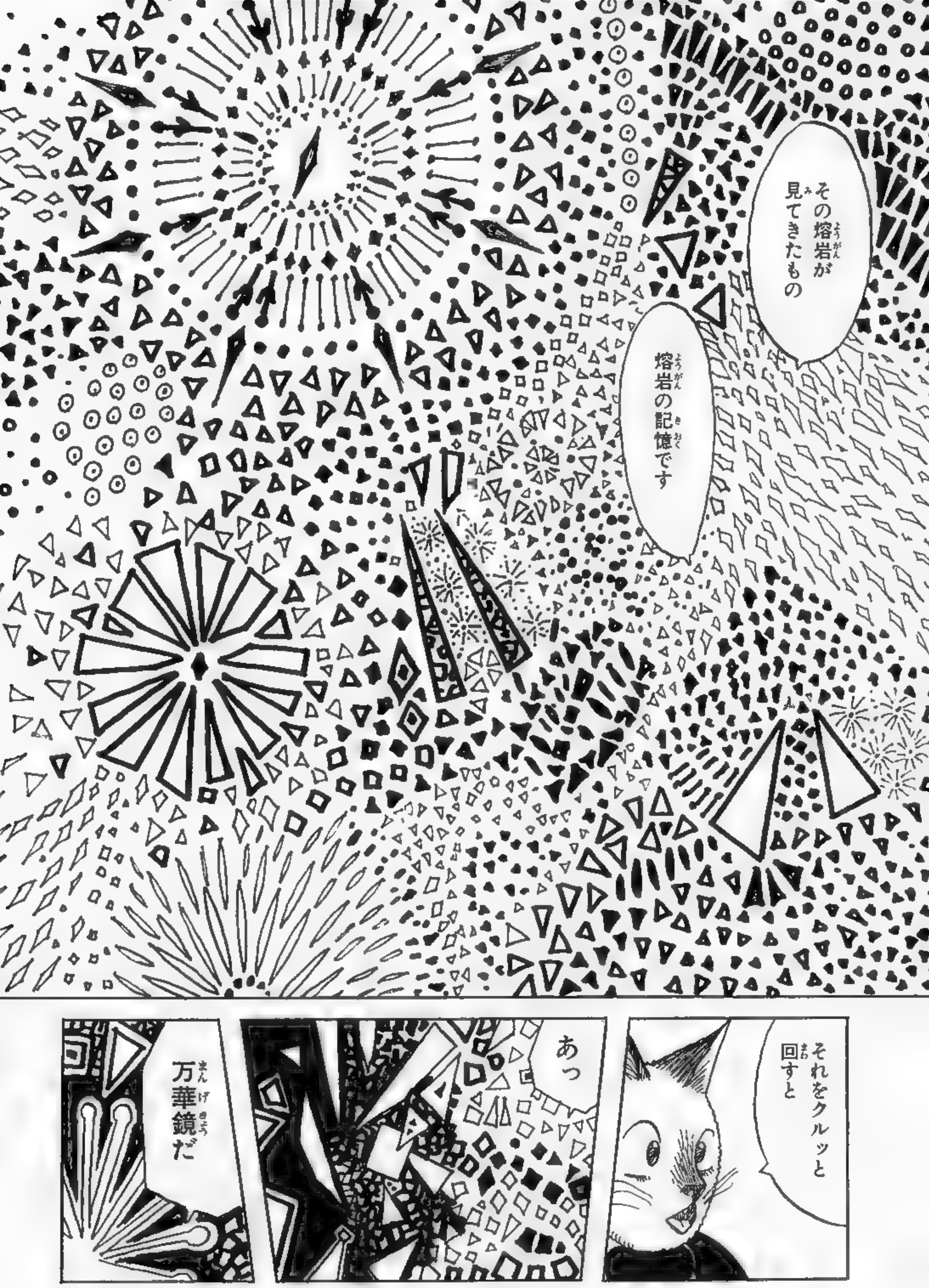

死にたくね——っ
来たあ
ビン
ビン
うわっ
あれっ
おおっ
これはっ

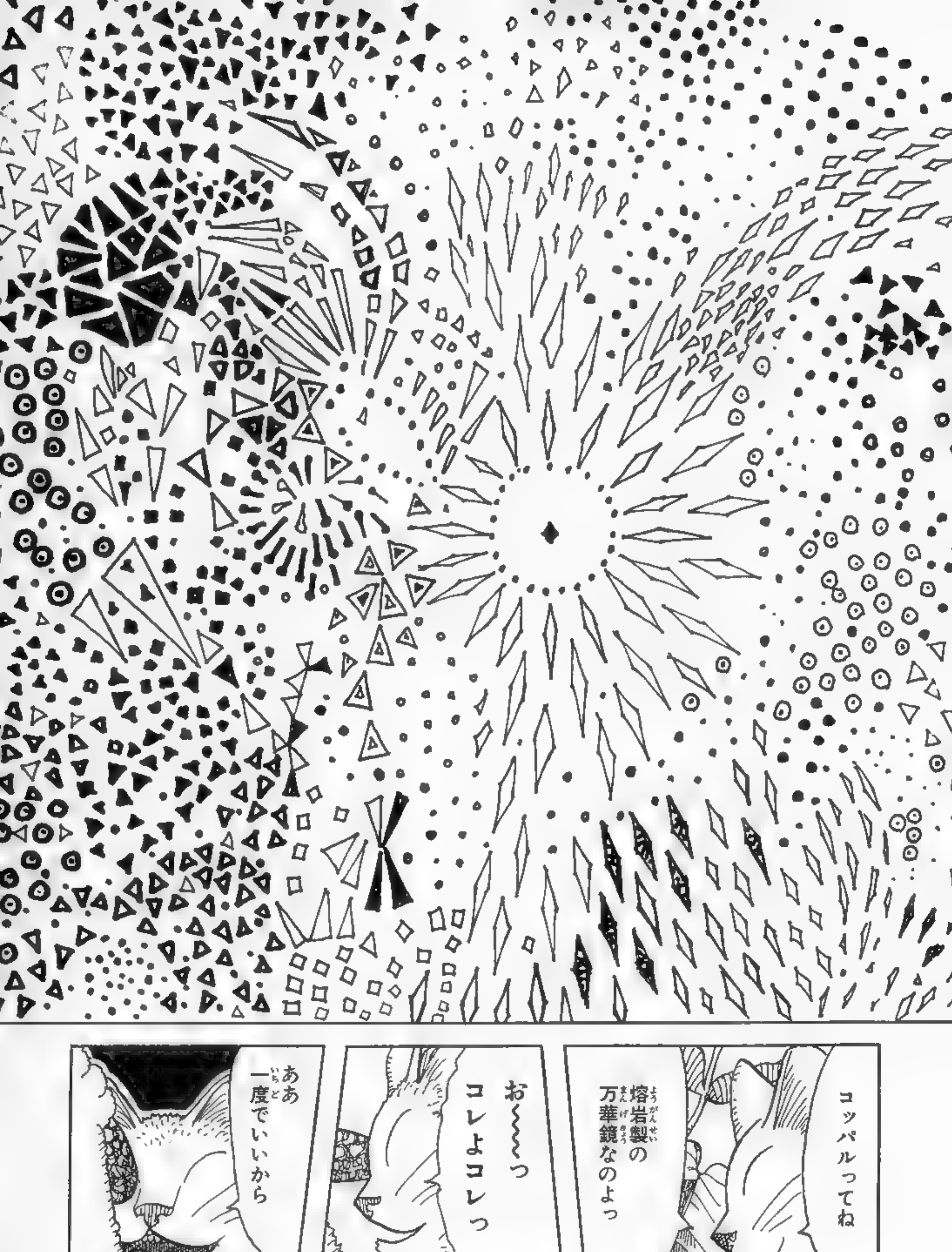

火砕流が通り過ぎて行くぞ
そうかっ
石のピアノから吹き上げたあの青いカケラが幕を作ってるっ
ん
あっ
熔岩だ



なんて奇妙な形
こんな棒状の火山弾見たことないぞ
青いカケラがついてる
あれっ
穴があいてる
んあっ

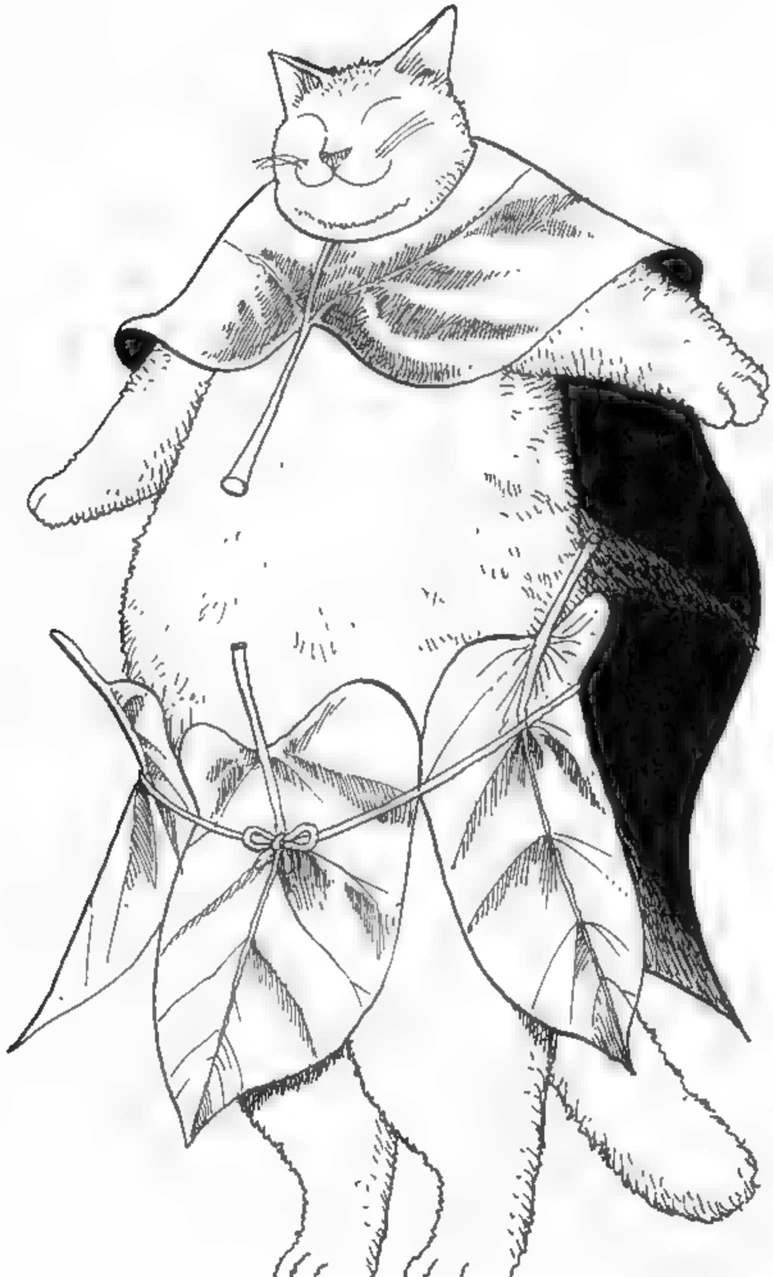

おっ
そうか…これがコッパルだっ
7日後
さあ さあ コッパルだよっ
カラーン
カラン
ゲホゴンガ火山の大噴火で手に入れたコッパルだよ
1見銅貨3枚よっ安いのよっ
凄いですよーーっ
カラン
カラーン
見せてくれ
ダンナさんしびれますよ
うあ…
これはいったい？
それはですね


その熔岩が見てきたもの
熔岩の記憶です
それをクルッと回すと
あっ
万華鏡だ


コッパルってね
熔岩製の万華鏡なのよっ
お〜〜っ
コレよコレっ
ああ
一度でいいから


銀河くらいのイカに逢いたい

第三話　ハリハリ蝸牛（カタツムリ）




ザーッ
ホラ
うむむ
むががっ
もう つんでるよ


まーた 負けかよォ
あーあ こんな時は
シポッと カタツムリ 食いたいなあ
ぜんぜん 見かけ ないねえ
毎年 おまえ 大量に 食ってるから 絶滅したんだよ
でも この雨音 聞いてると
食べたく なんのよさ
ほんとは どこかで見かけて ないかい カタ様
そーいえば ゲタ林で 見たな
なに〜〜っ
ゲタ林ーっ



カタ様──っ
会いに来たよーっ
どこですかー─っ
ザーーッ
シュポシュポしましゅよォ
らっ
なにやってんのだ
カタツムリ探して
いるの
さ
コラ
勝手に探すな
この森のカタ様はみーんなオレのものだぞ


なに言ってんだ
採った奴のものだぜ
それで何匹採ったのさ？
ぜんぜんだよ
オレたちが探しているのは銀色の
おい
チャチャ丸
おっといけない
もごもご
もーーっ
なにがぜんぜんだよ
みんなオレのものだからねっ
カタ様ーーっ
どこにいるのォ
行ったな
バカめ


オレたちの探しているのは
銀色十字紋様のカタツムリなのだ
見っけ
絶対見つけるぞォ
おう
ゴッ
しぽっ
にっちゃくっちゃ
んめ〜〜っ
生食いかよォ


テンプラも食ってみな
ホッペが落ちるわよ
落ちなくていいよ
おっ ヒデヨシ
カタツムリやたらに食うんじゃないぞっ
釣り道具屋の親父どーしたんだよ
おまえ伝言林見てないな
銀色のカラに十字の紋様ついたカタツムリ見つけた者に金貨1枚か紅マグロ1本だぞ
紅マグロ1本



銀色で十字だなっ
いよーーしっ
2日後
ザーーッ
ガサ
ガサ
くっそーっ
どいつもこいつも
銀色カタ様はオレのものなのよーっ
うむむっ
このままでは誰かに見つけられてしまう
うーむ
にゅーーむ
ヒデヨシがなにか考えてるぞ



まっ
ろくな事じゃ
ないな
それより
テンプラ
もしもヒデヨシが
銀色カタツムリを
つかまえたら…
紅マグロと金貨
どっちにすると思う？
なんだか…
食ってしまう
ような気がする
オレも
そう思う
5日後
ザー
さすがに
みんな
諦めたな
ああ
あれっ


ザ──ッ
なにやってんだっ おまえ
見れば判るべさ
銀色カタ様おびき寄せているのよっ
なに考えているんだか…



あんなことして
本当に おびき
寄せられると
思ってるのか
思っている
のだろう
おっ……
これだ…
カタ様ーっ
銀・ギン・ギン
なに読んでるんだい
パンツ？
カタツムリ好きの
古代の王ヌメフヌメの
伝記さ
その中に
銀色十字紋様の
カタツムリが出てく
えっ


「ハリハリ蝸牛」という名前だ
ハリハリ蝸牛…
王様は探しまわったが見つけることはできなかったという
ザーーーッ
おーい ヒデヨシ帰るぞーっ
あれっ
ぐーぐー
しょうがないなあ
おいてくか
!



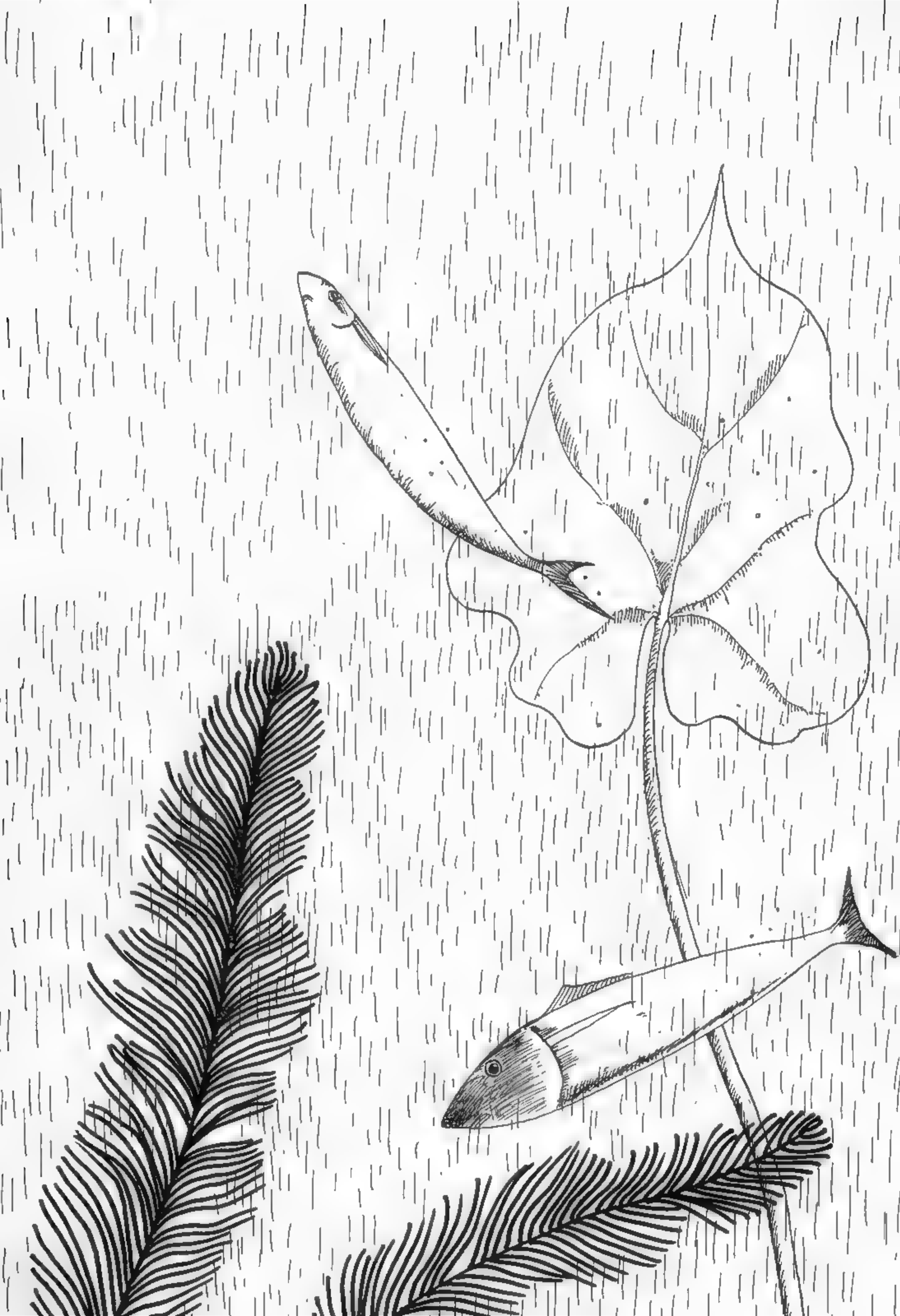
ぐーっ
あっ
ハリハリ蝸牛だ
ほんとだっ
ヒデヨシに向かって進んでいる
どういうことだ？
相当知的なのかもしれないぞ
知的？


あんな ハリボテのカラ つけてる奴の 顔見たくなってるんだから…
にゃ
見っけ
らっ
飛んだ
スッ
あっ



くっそーっ
消えちまったぞ
雨の中に消えるとは
不思議な能力だな
ら
凄え
凄いのよ〜〜っ
ホラホラ
なにが凄いんだよ
これ…？
うっ


雨の中に魚




ザーッ
ハリハリ蝸牛って
この針のことかな
これが釣り針だとして
…エサは つけなくて
いいのかなあ
そーいえば
そーだよ


えっ
魚？
なんだろう
コレを
持っていると
…見える…
らっ
プチッ
プチッ
切れたぞ
んっ
なんだ？
針か？
針!?
ザーーッ


エサもないのに
食いつくわけ
ねーーべよっ
わおっ
やったっ
テンプラッ
かじらせて
くれいっ
いいよっ
いただき
ましゅ


はぐっ
どう？
んまぐねえ
雨水かじってるみたいだ
雨水…
雨の音がするね
よーーし
オレも
釣るぞっ
ザーーッ
食っても
んまくないもの
釣って
どーすんのよォ
7日後
ミーーン


暑〜〜っ
汗みどろの夏が今年も来てしまいましたね
う〜〜っ たまんないわあ 助けてくれ〜〜っ
暑くて暑くて寝てられないのよォ
ではこれ貸してあげましょう
なんだ それ この間の雨魚じゃないか
食ってもんまくないよ


食べるんじゃなくてね…
凄いんですよ
ドッ
ではさっそく
ん…
ザーーッ
ザーーッ
雨の音がする…
おっ……ひんやり
ザーーッ
ミーン ミーーッ
うう


キャーッ
しい

第四話　三日月手風琴（みかづきてふうきん）

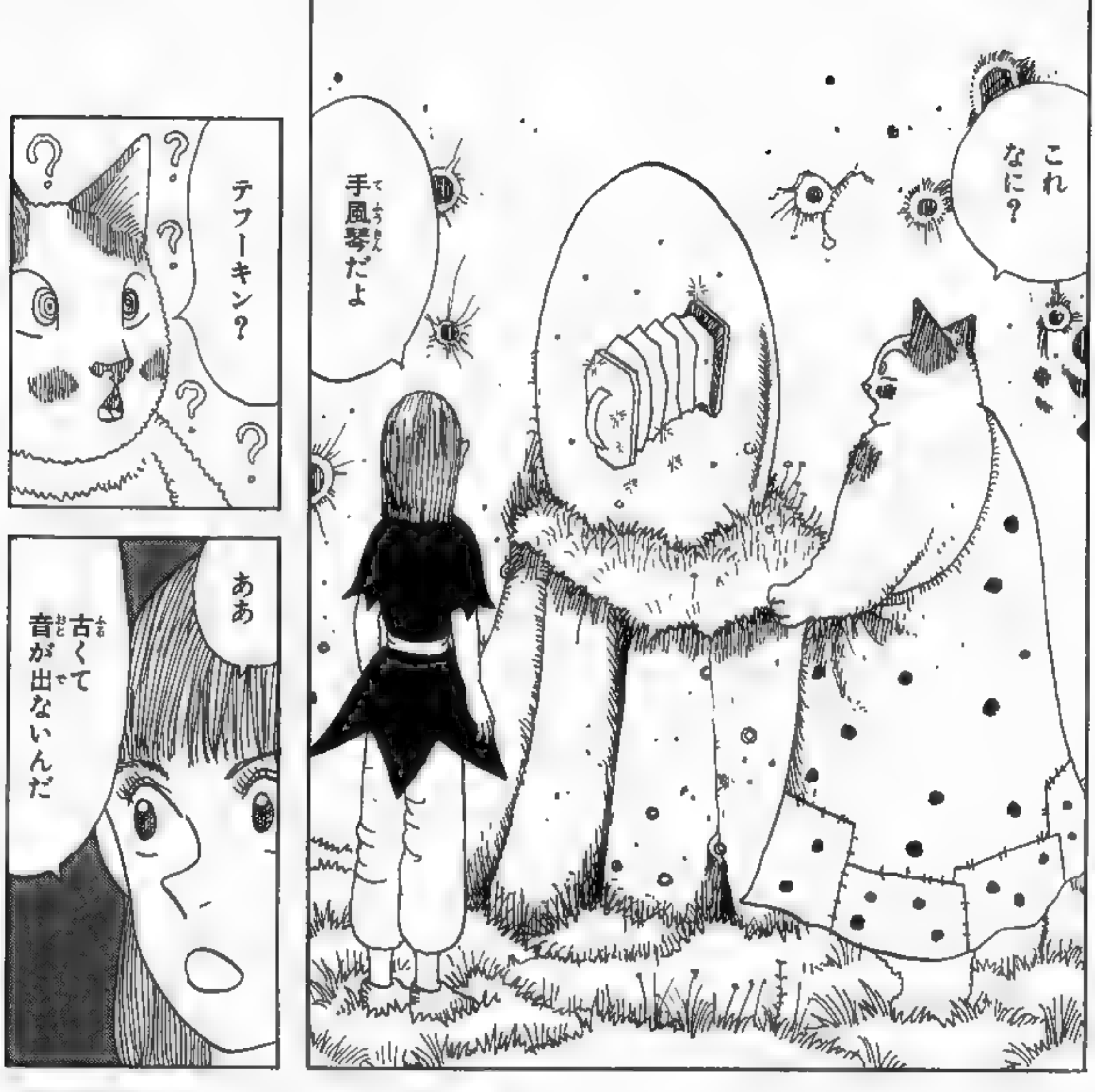



ぐーっ
ミーーン
ぐーっ
ぐーっ
オレたちゃ
欠食ドラネコ団
ぐっ
ら
ドラネコ団…
…なんか変だな



そっか みんな 裸だ
年がら 年中 腹ぺこだっ
どこへ 行くんだろ？
ツキミ姫んちか
ん？
出来たかな？
もう すぐだよ
ハイ


へっへっ
ごふ ごふ
なーんだ おまえたち 服直してもらったのかい
あら ヒデヨシ
そーー なのだ
やあヒデヨシ君
冷たいブドウ水あるよ
にゃーん どーも
んーまいんだなあ ブドウ水
あーっ 最高だぜ
んっ


これ なに？
手風琴だよ
テフーキン？
ああ 古くて 音が出ないんだ
ツキミ姫は 腕の力が ないからさ
オレが鳴らせて やるわよーっ
腕力じゃないと 思うけどな
見てな さい
さあ 鳴らすわよォ
んっ


あれっ
あれ
スコッ
スコッ
スコッ
スコスコいってるだけだぞ
ぺっ
オンボロ手風琴めっ
だから言ったでしょ鳴らないって
みゅーっ
みゅーっ
らっ
あっ
鳴ったっ
凄いぞカツラ君


なんでだよォ カツラは鳴って どーしてオレは 鳴らねんだぁ
カツラ君には 不思議な力があるんだよ
オホホホ
ごっ
スコッ
あら 鳴らなく なった
ううっ
スコッ
みゃーっ
あれっ 鳴ったぞ
ごっ
スコッ
また 止まった
フーム


変な手風琴だねえ
みゃー
北に向かった時しか鳴らないなんて…
ヒデヨシ こりゃあきっと宝のありかに行けるぞ
宝のありかだとォ
でもこのまま北に行くと…


蛇腹沼かよ
みょーーっ
みゃーーっ
おっ
おやっ
手風琴ですか
こんちはー
やあ
唐あげ丸さん
ヒデ丸君
その手風琴
鉱物で出来て
いるのですか
ん？
月型雲母で
作られてます
我が先祖が
作らせたもので
三日月手風琴と
いいます


三日月手風琴
ああっカツラしか鳴らせないのだ
しかも北の方角に向かった時に鳴るのよ
北に？
そうさっきっと宝物が隠されているのさ
よーしカツラこのまま北に進めっ
ごつ
みゃーーっ
ドスドス
こら待てっ舟を探してくるからよっ
あっ
わっ



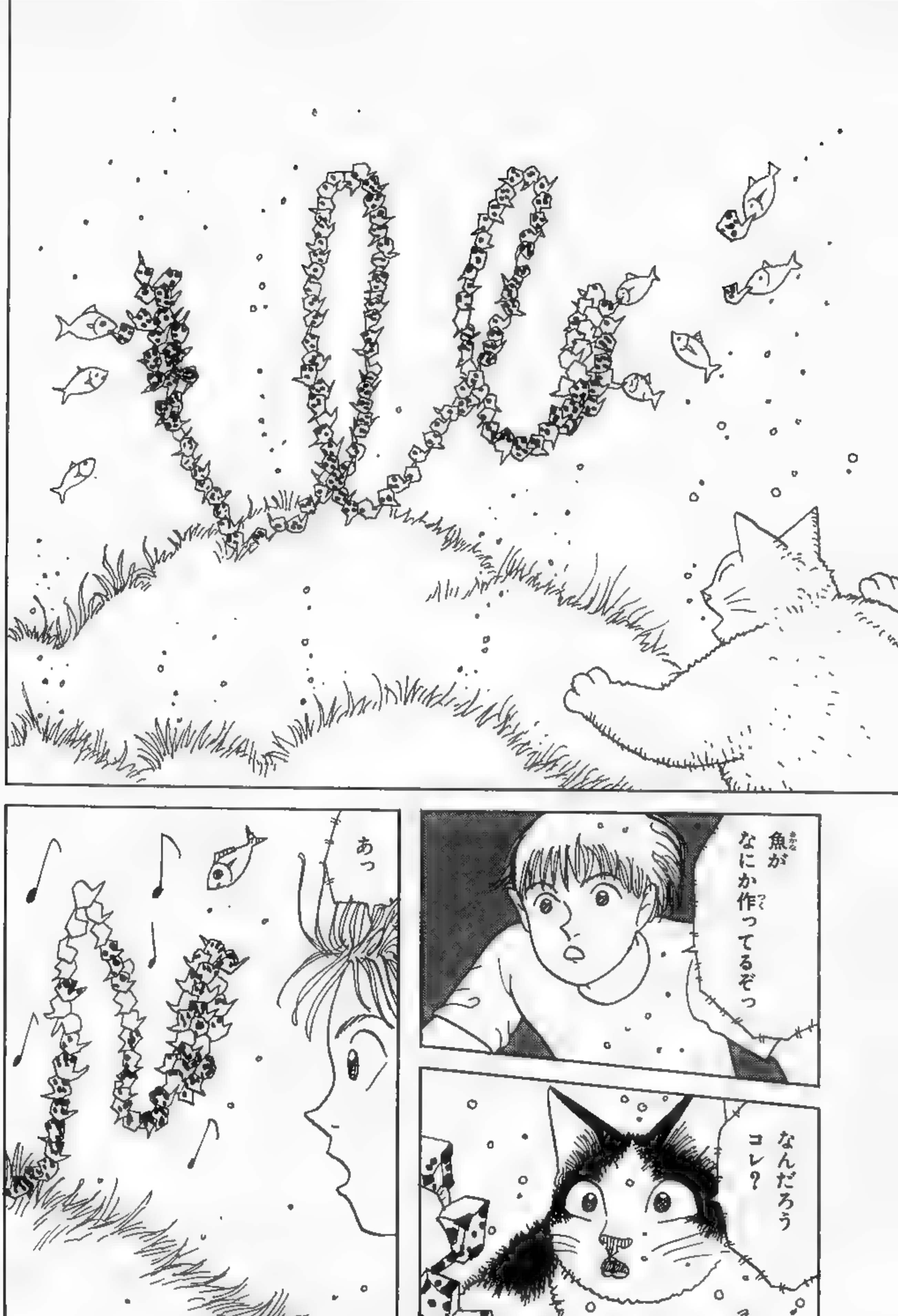
みゃーっ
チャプッ
水の上を歩いてるぞっ
大デブのカツラが沈まないとはどーいうことだ?
みゃーっ
みっみ
みゅーっ
みーっ
うっ…うまい
えーっカツラうますぎないかあ

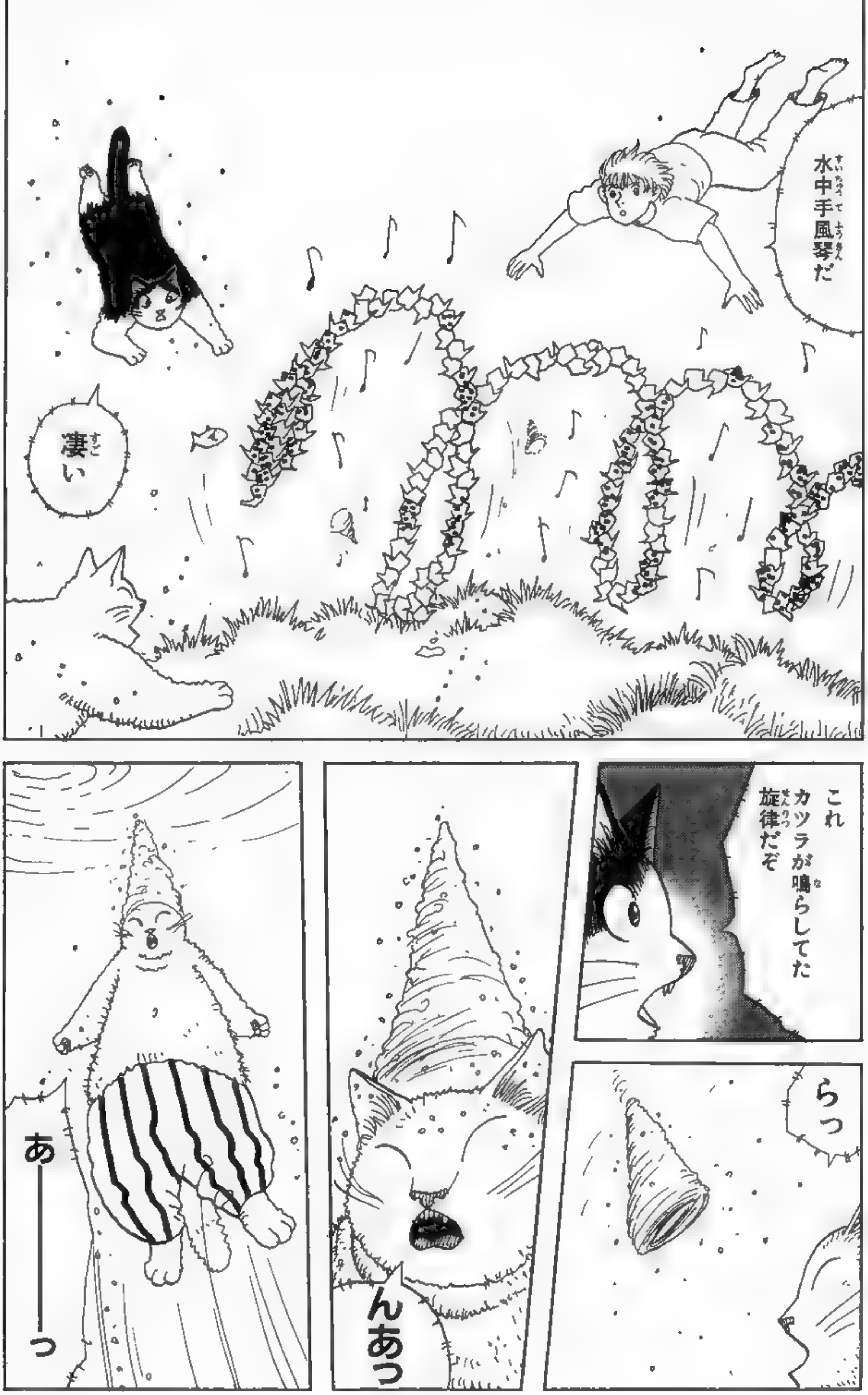

ああ…カツラ君が鳴らせているんじゃなくて…手風琴が鳴ってるんだ
手風琴が勝手に!?
なんて奇っ怪な
みゅーっ
みーーっ
ジャブ
パシャ
パシャ
ありゃ
水がバシャバシャさわいでるっ
パキッ
あっぶっかけた
これは!?

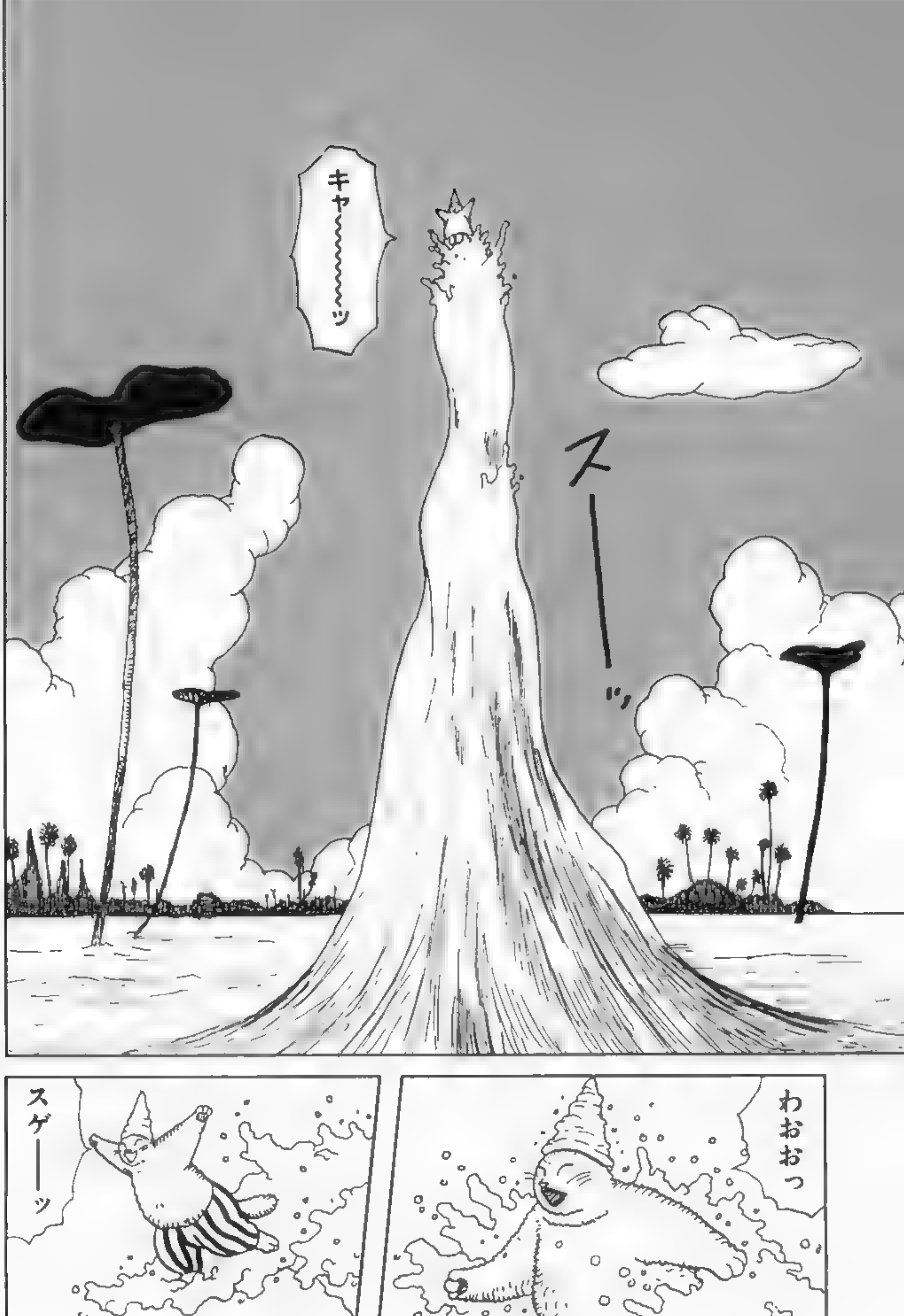

チャプ
わっぷ
バシュ
あらっ
カツラ
3日後
ミーミンミー
ごっ
ホーラ次はカツラだぜ
ドブ


!
ぷはーーっ
親分
パンツ魚いたよ
ハッ?
パンツ魚?
なにがパンツ魚だよなあ
なんだそりゃ?
こっち こっち


!
うっ
ホントだっ パンツのキセル みたいなの くわえてる
ねっ
しかし なにくわえて んのかな
ああ パンツ魚だわ
水中呼吸液を たっぷり飲んで…
あっ


魚がなにか作ってるぞっ
なんだろうコレ?
あっ


水中手風琴だ
凄い
これ
カツラが鳴らしてた
旋律だぞ
あーーっ
んあっ
らっ


キャ〜〜〜〜ッ
スーーッ
わおおっ
スゲーーッ


ザザザッ
面白いーーっ
おおっ
ごっほほっ
波乗りだーーっ
なんだ アレは!?
翌日
ミーーンミ
おおっ 来た 来た
でっかいっ


ヒデヨシ波だ

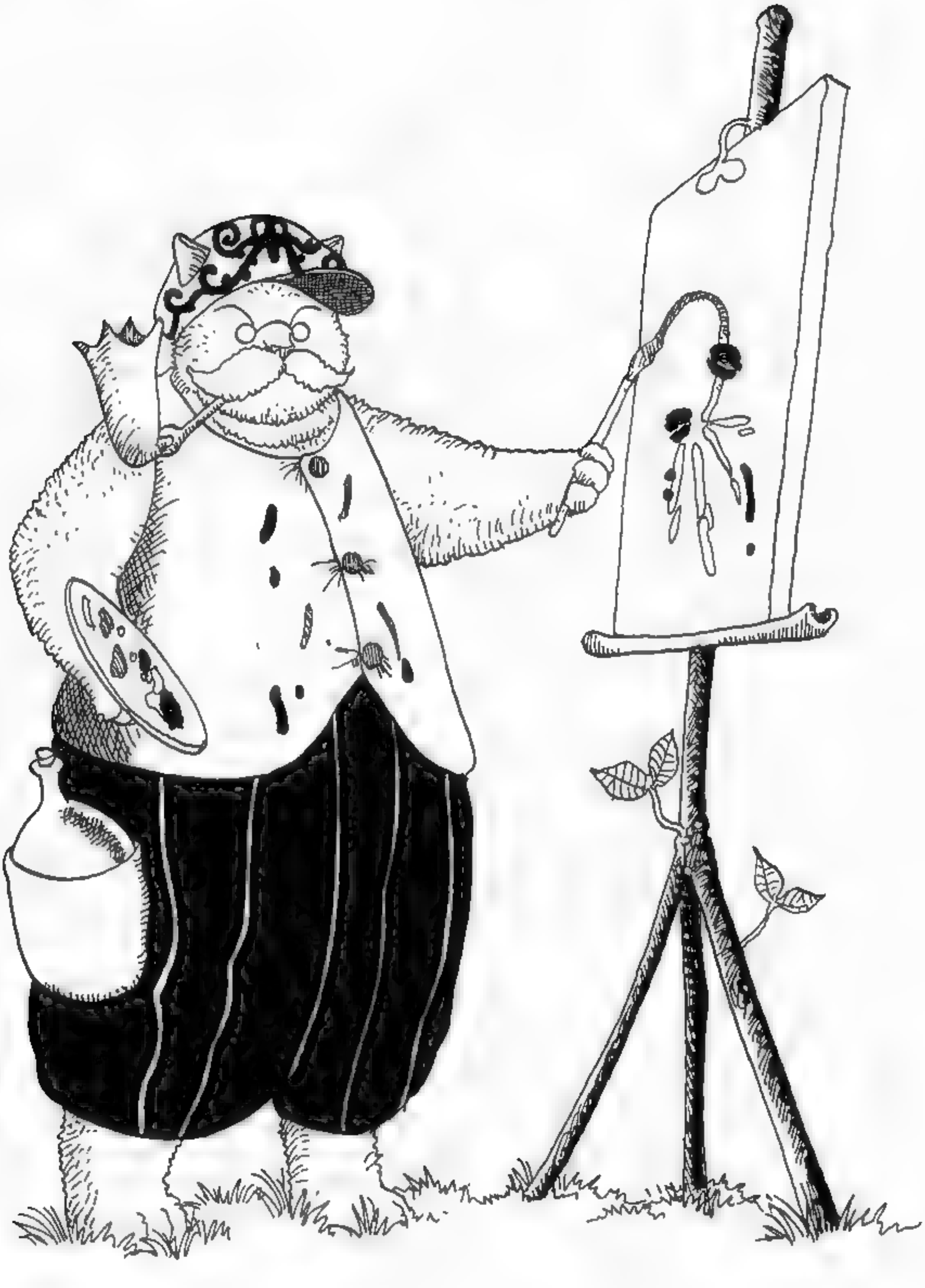

にゃっほーーっ


まるで海ですね
海より大きな波だぜ
ツキミ姫の手風琴は
こんな大波を作る力があったのか
この水の渦巻きの三角をかぶっていると
気分が波を作りどんどんふくらんでこわくなってくる
その瞬間波はくずれるのに
あいつ いくらふくらんでも平気だから
凄え
森まで入っていくぞっ

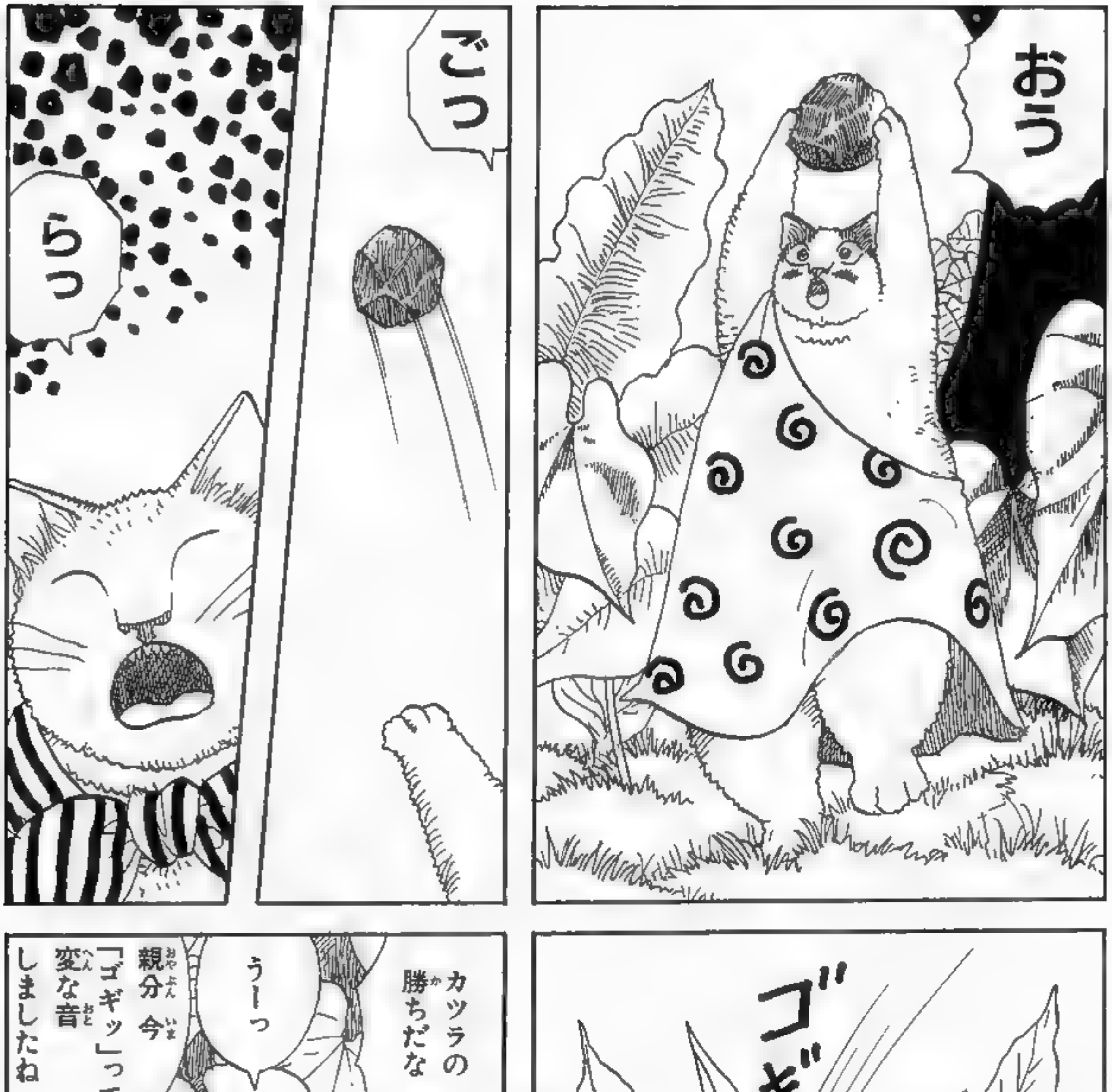

キャーーッ
最高よーーっ
ザザッ
ああ……ヒデヨシの波に乗っていると
ホントにいーー気分だっ
なんだかヒデヨシになっていくみたい
幸せで胸がいっぱいになってきますねえ
あらっ
えーーっ生ダコおいしいよォ
イエッ
うっ
ザザーーッ


ドロボーッ
わっ
うっ

第五話　ケムリン様（さま）




夏のバカ力くらべ
カツラ対ヒデヨシ
いよいよ最後の
くぬぬ
とおっ
うっ
飛んだなっ
ど――だァ
これで
ダンゴのタダ食い券は
オレのもんだな
ドドッ
くっ
がんばれ
カツラ


おう
ごつ
らっ
ゴギッ
カツラの勝ちだな
うーっ
親分 今「ゴギッ」って変な音しましたね
岩かなんかに当たったんだろう
ガサ


ありゃ……この岩に当たったな
ぶっかけたところから煙が上がってるぞ
おかしな岩ですねえ
コラ おまえたちか
ケムリン様に石ぶっつけたのはっ
ケムリン様？



この岩がケムリン様だよ
鳥霧山が噴火しないのはこの岩のお力なのだ
こんなにぶっかいて…ケムリン様のお怒りがあるぞ
鳥霧山が噴火しても知らないぞっ
イエ〜〜〜ッ
噴火しろーっ
あ――あ欠けた所から蒸気が噴き出している…
うう…
10日後
う――っ
ちょっと熱いかな


なにがちょっとだよ
まっとうな人や猫は
熱くて入れないよ
鳥霧山の活動が活発になってきてるんだ
噴火するかもしれない
するのよ〜っ噴火なのよ〜っ
ケムリン様のおかげなのよーっ
ケムリン様?
らっ
もの知りパンツでも知らないのか
ケムリン様ってなんだ?
おほほ
それでは


もの知りスミレ博士の登場でーす
やっ
ども
スミレです
ケムリン様はがんがら森の中で私が発掘した岩じゃよ
岩？
おまえが発掘？
ああその岩は鳥霧山の親戚でな…助手のカツラ君が石をぶっつけたら怒り出したのじゃ
それでもうすぐ噴火を……
おいコラ
ホントなのよォ


あっ
どうじゃ？
本当だ 岩が蒸気を 噴いている
ねっ 凄いで しょう
おまえが発掘したなんて ウソだろう
コケ草が こびりついてる じゃないか
いーのよ 学会発表は 発見した者が なに言ってもいーのよ
これが ケムリン様
煙の勢いが グーーンと 強くなってるのう


あれ
ドラネコ団
ガサ ガサ
お
テンプラに
パンツ
親分 昨日より
もっと蒸気が
上がってますぜ
ううっ……
噴火
ダメッ…
なあパンツ
頼むっ
鳥霧山
噴火しないように
してくれっ
そんなこと
言われても
ムリだよ
そーじゃ
どわい噴火するぞお



うわ〜〜〜〜ん
泣くな
カツラ
そーよっ
噴火は
祭りじゃ
この星の
目出度い
祭りなのじゃ
ぐらぐら
おっ
地震だっ
こりゃあ いずれ
噴火するなっ
翌日
鳥霧山が
まもなく噴火
なのよーっ
ドン
ドン
みんな
逃げるのよーっ


えーーっ こちらはアタゴオル火山局です
鳥霧山噴火の恐れがあります
できるだけ山から遠ざかり避難してください
そーよ避難なのよーっ
魚屋さんは特にねーっ
ちょっと——っ アンタ 後ろからついてくるのやめてくれよォ
こまかいこと気にすんなよ
祭りなんだから
パンツの家
ミテーーン
ミィーー
うっ
ホントだ
山頂が また ふくらんでる



こりゃあ
ダメだな
うーーっ
しっかし
凄い数の本
パンツ みんな読んだのか？
ああ…
フーン
わけ
判らんな
パラ
ゴッ
んっ？
どうした
カッラ
これ
見たよ
えっ？
これだよ
どこで
見たんだ？


ケムリン様で
え!?
ドス
ドス
んっ?
おーい どーした 噴火でもしたのかあ
コラーーッ 返事しろう
ホラ ここ
ここって… なんの紋様もないぞ
うーーっ



ほらほら
これだよ
これ――っ
！
ああっ
ホントだっ
「ガジバラジの紋」だっ
ガジバラジの紋？
ガサ
ガサ
カツラ君
この紋の発見
ワシに売って
くれいっ
いいよ
古代の伝説の
火山学者
ガジバラジだよ
「瞳ニ聞ケ瞳ガ答エル」


伝説が本当なら…
瞳に手を…
ドド
らっ
ん?
なんじゃこりゃあ
ミーン
ミン
ミン
いそげ硫黄谷
よいしょ
よいしょっ

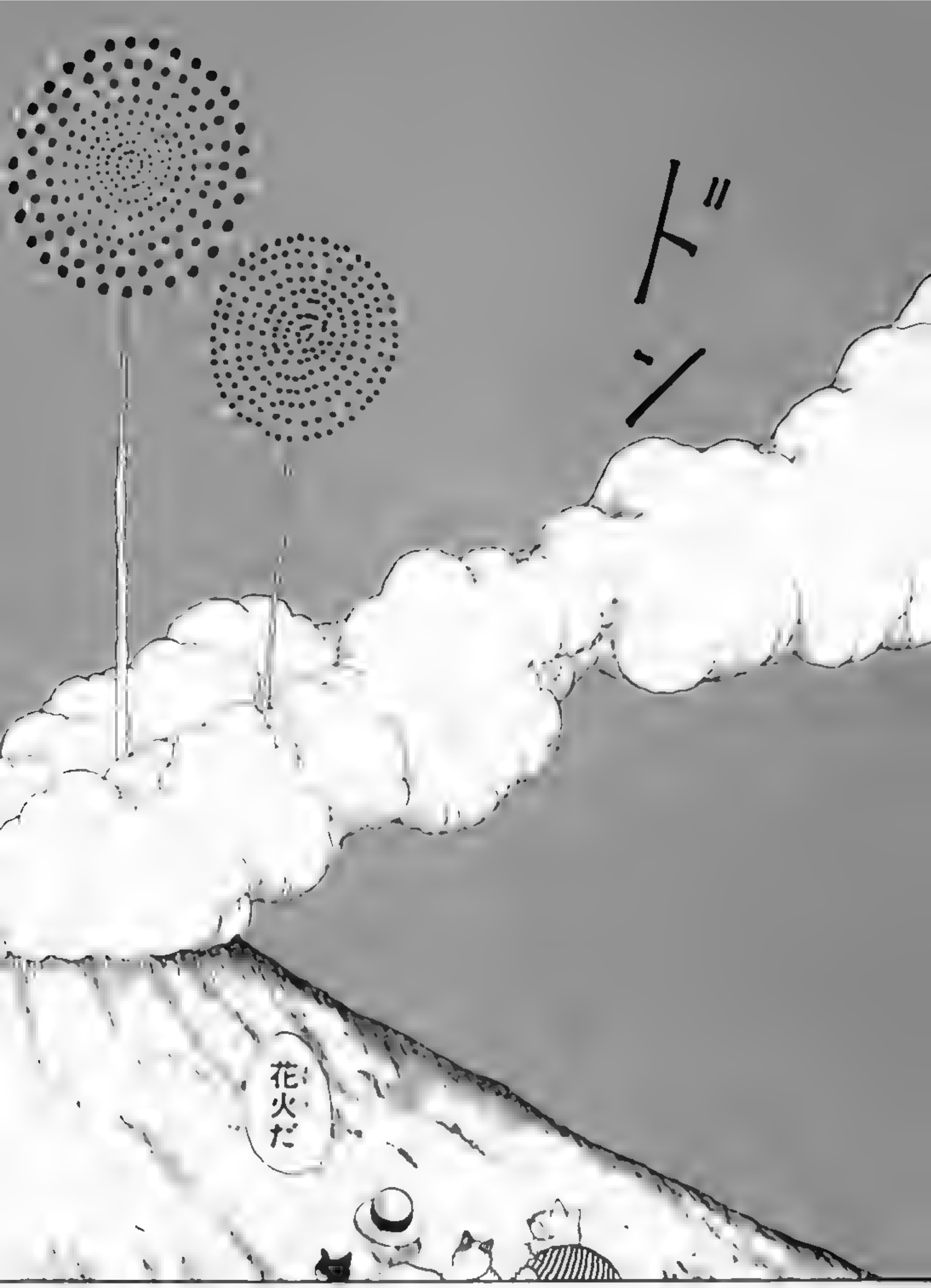

ドン
おっ
噴火した
あらまっ ちっちゃい噴火だのう
まだ始まりだ だんだん大きくなるぞ
さあ行こう
シュー
シュ
火山瓦斯だっ
これを吸っても平気なのは…

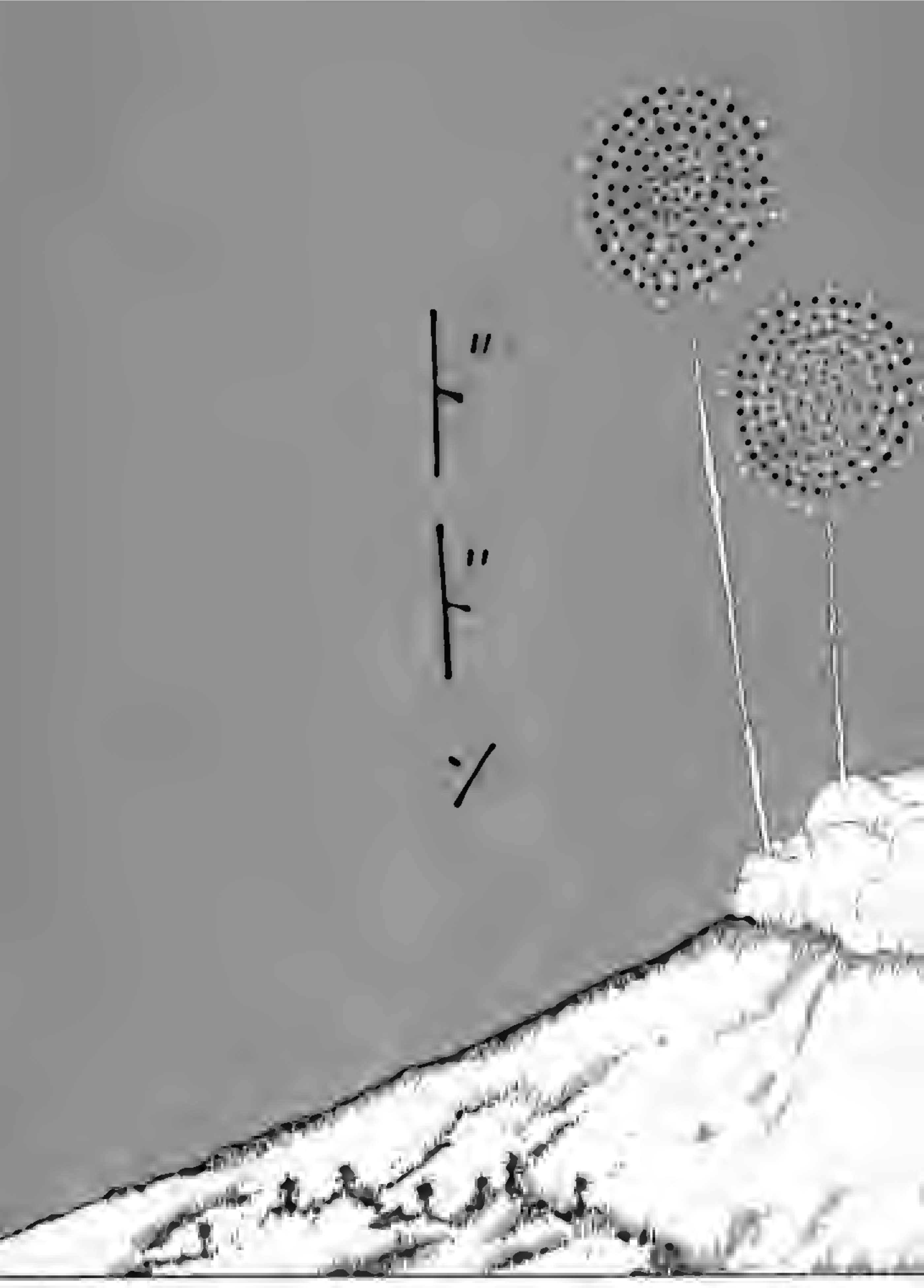


ワシだけじゃよっ 不死身の火山学者 スミレ博士だけなのじゃ
で パンツ君 これをどうすれば いいのかね
そこに記された言葉によると
「瓦斯吹キ孔ニ投棄スベシ」 大きな穴に投げ入れるんだ
よろしいっ これをぶち込めば いいのじゃな
そーだっ ケムリン様も ガジバラジの紋も み――んなおまえの 発見と発表して いいから
よ――し 約束だぞっ
ほれっ


ドドーッ
底の方で破裂したようだぞ
これでどうなるんじゃい？
判らんが…
ドドッ
うわっ


うわっ
あぶねーーっ
早く山を下りるんだっ
逃げるだとォ
なんのためにあんな球投げ込みに来たんだあ
あっ

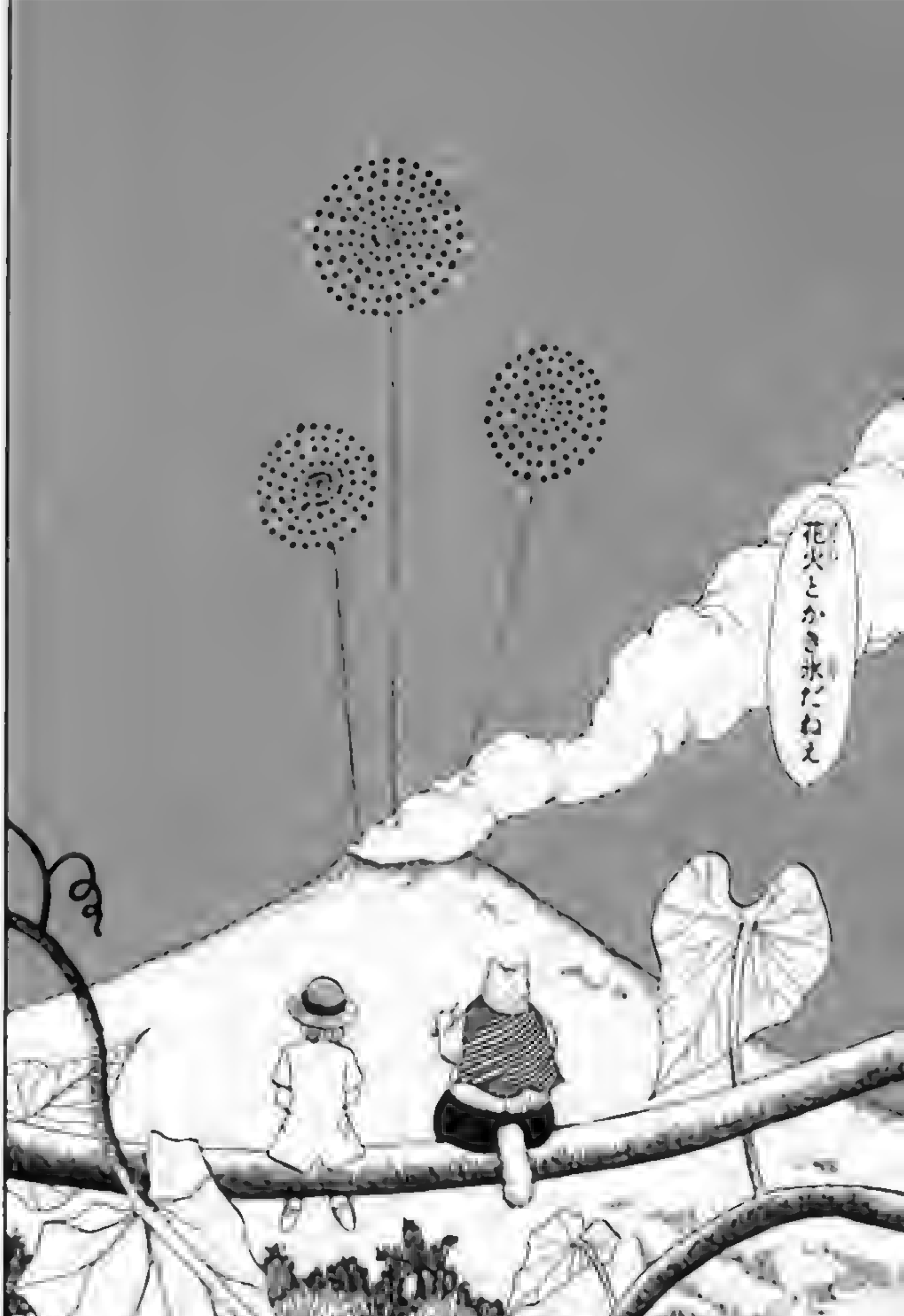

ドーン
花火だ


ドドッ


ドドーン
凄え
熔岩花火だ
おっほっほっ
素晴らしい
しかし
なんでじゃ？
なんで 熔岩が
花火に？
ドン



たぶん さっきおまえが 投げ込んだ球の せいだよ
なに!! あの球でか
ああ… ガジバラジは 伝説の学者… 噴火する山を 寝かしつけた男と 言われているが
ミーン ミィ
噴き出す熱量や 熔岩を 花火に変えて しまうとは…
ドーン
ショコ ショコ
うーーっ
夏はやっぱり


花火とかき氷だねえ

第六話　ガモンガ




残暑たまんねーっ
暑ーーっ
ヒデ丸
冷やし珈琲大盛りねっ
オレ並
お待ちどさん
くーーっ
んっめーーっ



あれ 親方 どうしたの？
3日前から 行方不明 なのです
また新曲作りに 行き詰まったのかな
それが不思議なことに バイオリン持って 行かなかったのです
唐あげ親父なら さっき見たぜ
そー 見た 見た



えっ どこで!?
ワサワサ岩のところで
なんか大きな風呂敷持ってたぞ
大きな風呂敷?
親方ーーっ
唐あげ丸さーーん
大きな風呂敷にどんな食い物が入ってんだあ
ずるいぞう ひとりで食うなんてえ
なに涙ぐんでんだよ
うう… あれっ


ほっ
ほっ
親父なにやってんのさ?
見れば判るでしょ
絵を描いているのです
絵ーーっ
で…なんなのよこれは?
ヒデヨシ君に説明しても通じませーん
あらまっ


親方 なんだか気持ちのいい感じしますね
ありがとう
この絵はね風を描こうとしているのです
親方 どうして急に絵描いたりしてるんですか
さーっ どーしても どーしても描きたくなったのですっ
ほっ
ほっ
こりゃあ当分家には帰らないなあ
そうですね


絵なんか描いて
どーすんのよォ
ダンゴや魚描いたってそんなもん食えないんだぜっ
おまえは食欲でしか判断できないのかね
あたぼーよ
4日後
最近絵描く者が多いなあ
ああ
あれっ


ほっ
ほっ
ヒデヨシ
なにやってんだよ
誰がヒデヨシじゃ
ワシはスミレ画伯
見ての通り
画業道を邁進しとるのよ
なにが
画業道だよ


おまえ絵なんか描いても食えないって言ってたろ
はて
なんのことやら
なんか急に描きたくなったのよね
んっ
それでコレが題材か？
トックリとカタツムリ…
おう そしてコレが
問題作じゃ


なんだよ
コレは？
見れば
判っぺよ
カタツムリが
トックリかかえて
笑ってるとこ
題して
「もっと酒くれ
カタツムリ」
いーべーっ
おいコラ
どこへ行くっ
感激料を
置いて
いけいっ
絵心の
判らん連中
じゃのう
しっかし
絵の具つうのは
いちいち こーして
出すところが
まどろっこしくて
イカンのう
にゅーっ
おおっ
そうじゃ
3日後


やあ
テンプラ君
やあ
絵描いてるの？
ああ
なんか…
急に描きたく
なったんだよ
スミレ博士
この辺に
いるよね
うん
この先に


おーパンツ君 いいよ いいー感じ
スミレ博士 出来たよ
にゃっ 出来たかっ
ウフフフッ 立派だ立派
ずいぶん ポケットが あるな
ほほほ
これにだな…



こうやって
絵の具を
にゅっ
にゅる
わっ
なにやってんだ おまえ!
こうやって 先に出して おけば
チマチマと 出さなくて すむのじゃよ
横着と いうか…
こうやって 絵の具つければ
素早く 描けるわけよ
さーっ描くわよっ
ホウ ホウ



ホレホレ
こうだあっ
それにしても
どうして急に
あちこちで
絵を描く者が
増えたのかな
なんか原因が
ありそうだが
……
ヒデヨシは
どうも怪しい
怪しい？
ああ
テンプラや
唐あげ丸さんは
本気で絵に
ハマッてるけど
あいつはハマッた
フリしている
ような気が…
そこで
これを用意
してきた
おい
スミレ博士


これ描いてくれ
うぷっ
生ダコちゃん
かっかっ描きましょーっ
描きますともっ
なんとお美しい吸盤の並び
私をそそる黒い目ん玉
じっと見つめて描きましゅ
うぷぷっ
タマラン食うべし
食ってから描くーっ…か
タマランく〜〜っ


しかーし
ヨダレを
ふりはらって
描きましゅ
あっ
信じられん
ありえない
こりゃあなにか
とんでもないことが
起こってるな…
ああ
ヒデヨシ君まで
まき込まれるとは
フーム



急に絵が描きたくなる…か
なんか思い当たるもののあるのかな
無いわけではないが……
それを見た者は見たことを忘れるという…
見たことを忘れる…？
ああ熱帯地方の昔話集の中にあった「ガモンガ」という話
ガモンガ…


ああ
ガモンガ
それにしても
みんな夢中で描いてるなあ
ほんとだねえ
まるで子供みたい
あっ
んっ
どうかしたのか？
……

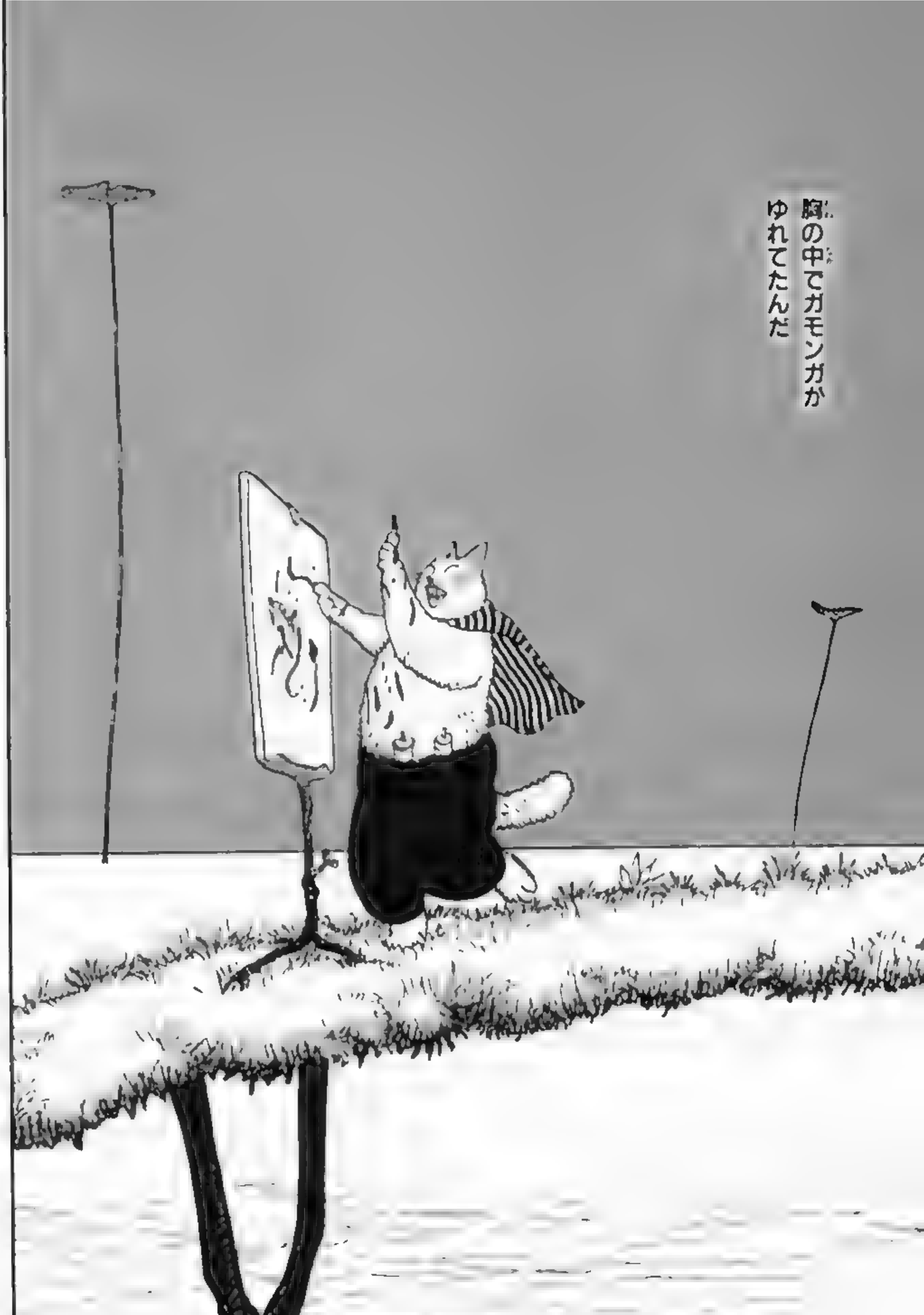

その先の方に なにか……
感じるんだ
なにか感じる？
こっち？
ああ
感じるって どんな風に だい？
なんか… おかしな気配 なんだ
うっ
あっ あれだ
気配の主は
なんてことだ


ガモンガだぞ
ええっ このヒョウタンが
熱帯に生えるという幻のヒョウタン
凄い紋様だねえ


あの紋様を見た者は
ヒョウタンを見た記憶が
無くなり
むしょうに
絵が描きたく
なるという
唐あげ丸さんや
ヒデヨシ君は
このヒョウタンを
見たんだね
ああ
それにしても
凄い紋様だな
2日後
子供のころ
オレたちは


みんな絵描き（えかき）だった




胸の中でガモンガが
ゆれてたんだ

第七話　モワモワ 前編（ぜんぺん）





ホントに来ますかねえ……
まあ見てな
ぐつぐつ
あっ 来た
あ〜あ どおしてぇ どーなの よ〜っ
んっ



い──匂い
ほほう
キノコた──っぷりのイモ煮ちゃん
みゃお──っ
にゃお──っ
♪
では いただきましゅ
あっさりと食いつきましたね
はぐ はぐ
ケダモノだってもう少し警戒心があるのに
んめえええ
ケダモノを超えた存在か
はぐっ


ようヒデヨシ
なに食べてんだ?
キノコたっぷりのイモ煮だよ
おまえが作ったのか?
おうオレが作ったのよ
1杯3銅貨で食べてもいいぜ
ずいぶんキノコが入ってるな
あちこちで採って来たのよんーまいぞーっ
ニセゲンゲ ブッコロタケ ウルシカブレ ベニノウミソ
これみんな毒キノコだぞ
ぶおっ

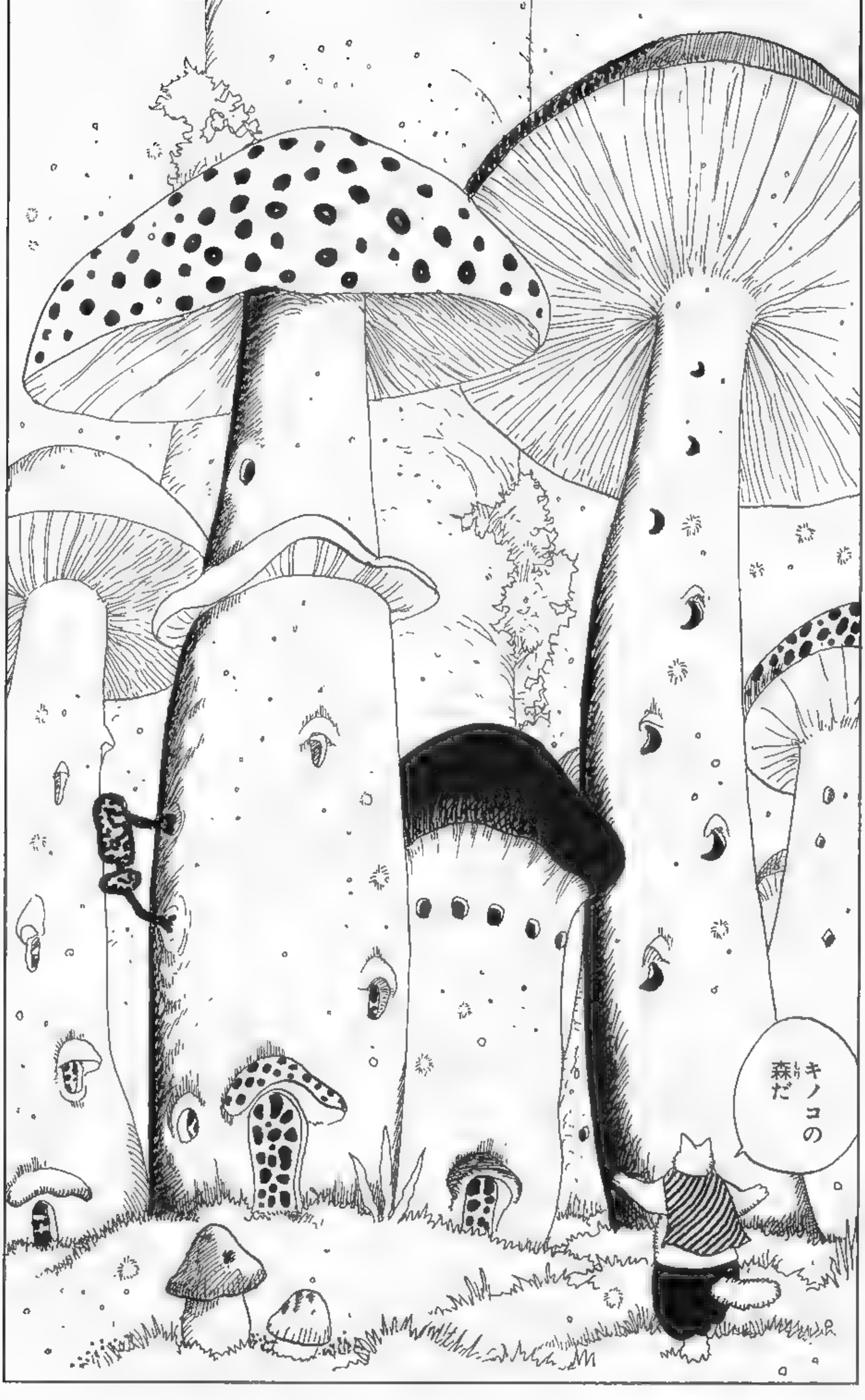

くっそーーっ
毒キノコだとォ
こんなキノコ食ったら
普通の奴は死んでるぜ
オレが死ぬもんか
くっそーっ 誰だっ こんな毒汁作ったのはあっ
なに叫んでんだよ 作ったのはおまえだろ
甘いなテンプラ
ホントは誰かが作ってここに置いてあったのさ
えっ
誰かが作った!?
そうよっ


毒キノコ汁なんか作って置いとくなんてヒドイことするよなあっ
勝手に食うおまえが悪いんだよ
しかし誰が作ったんだろうね
そこに入ってるベニノウミソってこの辺で採れるキノコじゃないぜ
えっ どういうことだ!?
この毒汁作った奴ってアタゴオルの森の者ではないんじゃないか
ガザッ
いやーーっ 素晴らしい
貴方がヤニ・パンツ氏ですねっ


ええ そうですが 貴方は？
ワシは ズドラモから来た ノプトプですじゃ
その毒汁 作ったのは ワシじゃよ
ぬあんだと この爺っ オレを殺す気かっ
殺すなんて とんでもない
でも こうやって 毒汁作れば アンタが食うと思って 置いたんじゃ
なに――っ
やっぱりオレを 殺す気だったぬあっ
い――や
アンタの腹を 試してみたのさ
試す？


おう
実はワシの森で困ったことが起こってな…
それで毒キノコを食っても平気な腹の奴を探しているうち
アタゴオルの森にヒデヨシという凄い男がいると聞いて来たんじゃよ
えっへん
我が森を救えるのは貴方の腹しかない
大好物とやらの紅マグロたーっぷり食わせるから助けてくだされ
助けましょ——っ
いや——っ


空飛ぶ火山ですか
これ速いのよーっ
しっかしなんでテマリまで乗ってるんだい？
おまえよくそんなことが言えるね
この火山を私に売った金であちこちの借金払ったろう
はて？
なんのことやら
見えてきましたよーっ
おっ


キノコの森だ


凄い
キノコだらけですねぇ
いろんな種類のキノコが生えてるから
ああ
胞子の型も色もいろいろあって…
なんか不思議な美しさだな
空気の流れが作る抽象画みたいだね
美しいでしょう ワシらも時々見とれますじゃ
らっ



なんだ アレは？
暗黒胞子 ベルンベロ ですじゃ
暗黒胞子？
ああ これが 森に発生して 困っとるんじゃよ
襲って来るの ですか？
いや 襲って来たりは しないが プカプカ浮かび
見えない 毒素を まきちらしてるんじゃ
毒素



それを吸い込んでいるうちに
こんな風になってしまうんじゃよ
にゃ——っなにコレッ
煙草屋の親父だよ
体中が粘菌化してしまったんだ
ネンキンカ？
ネンキンカってなんだ？
おまえに説明しても判んないなあ粘菌は
不思議な生命体なんだよ
ほうっ不思議な生命体


まあ　おまえも不思議な生命体だがね
あらそう？
モワモワ様に会えば助かるかもしれないのだ
モワモワ様!?
これはもう元にはもどれないのですか？
この森の奥に住むバケモノじゃ
バケモノ
ええ長いこと眠っていたのじゃが
今年の夏のあたりに目ざめたらしく


暗黒胞子を吹き出しているのじゃ
あれっ
あそこにも向こうにも
どうしてみんなこの森から逃げ出さないんですか!?
そーですよっ毒の胞子が踊ってるんですよっ
なーーんで逃げ出さないんですかっ
逃げ出したいのはやまやまなんじゃが我々は代々この胞子でいっぱいの森で生きてきたから
普通の空気の地では息苦しくなるのです


まあ とにかく
オレがモワモワって奴をぶっ飛ばして成敗してしまえば 紅マグロッ
ぶっ飛ばすなんてとんでもない
モワモワ様はバケモノですおとなしくお会いすればいいのです
フーン
ノプトプ
長老様 今帰りました
おおっ お主が語り伝えられた腹の主か
いえ——っ 紅マグロ
森の民を救ってくだされ



あいよっ
キッチリ救ってやるぜい
よいかなモワモワ様を刺激してはならんぞ
へいまかせましょーっ
凄い…暗黒胞子でいっぱいだ
この奥は毒素でいっぱい…
毒キノコ食っても平気な男でなければ入って行けない
モワモワ様はこの奥にいる



お会いしたらジッと静かにしていろ
おーーっジッとだなーーっ
では行ってきまっしゅーっ
らんらら
ヨダレだらだら流して
だらしのない奴だっ
紅マグロしか頭の中にないんだな
しっかし凄い胞子だなあ
なんも見えない


オーイ
モワモワーッ
どこに
いるーーっ
アタゴオルの
ヒデヨシが
会いに来たの
よ〜〜っ
会ったら静かに
ジッとしてろ…とか
言ってたな
誰がするもんかよ
ボコボコに
ぶっ飛ばして
紅マグロ
むっしゃりだぜい


にゃ!?
出たな〜〜っ
おまえが
モワモワかぁ
暗黒胞子を
まきちらして
森を苦しめる
バケモノめっ


このヒデヨシがおまえを成敗してやるぜい
アンタ臭イヨ…ココカラ出テ行ケ
くっ
臭いだとォ
コノヤロゆるさんぞっ
ボコッ
わふっ
打イテモむだダヨ
ニューーッ

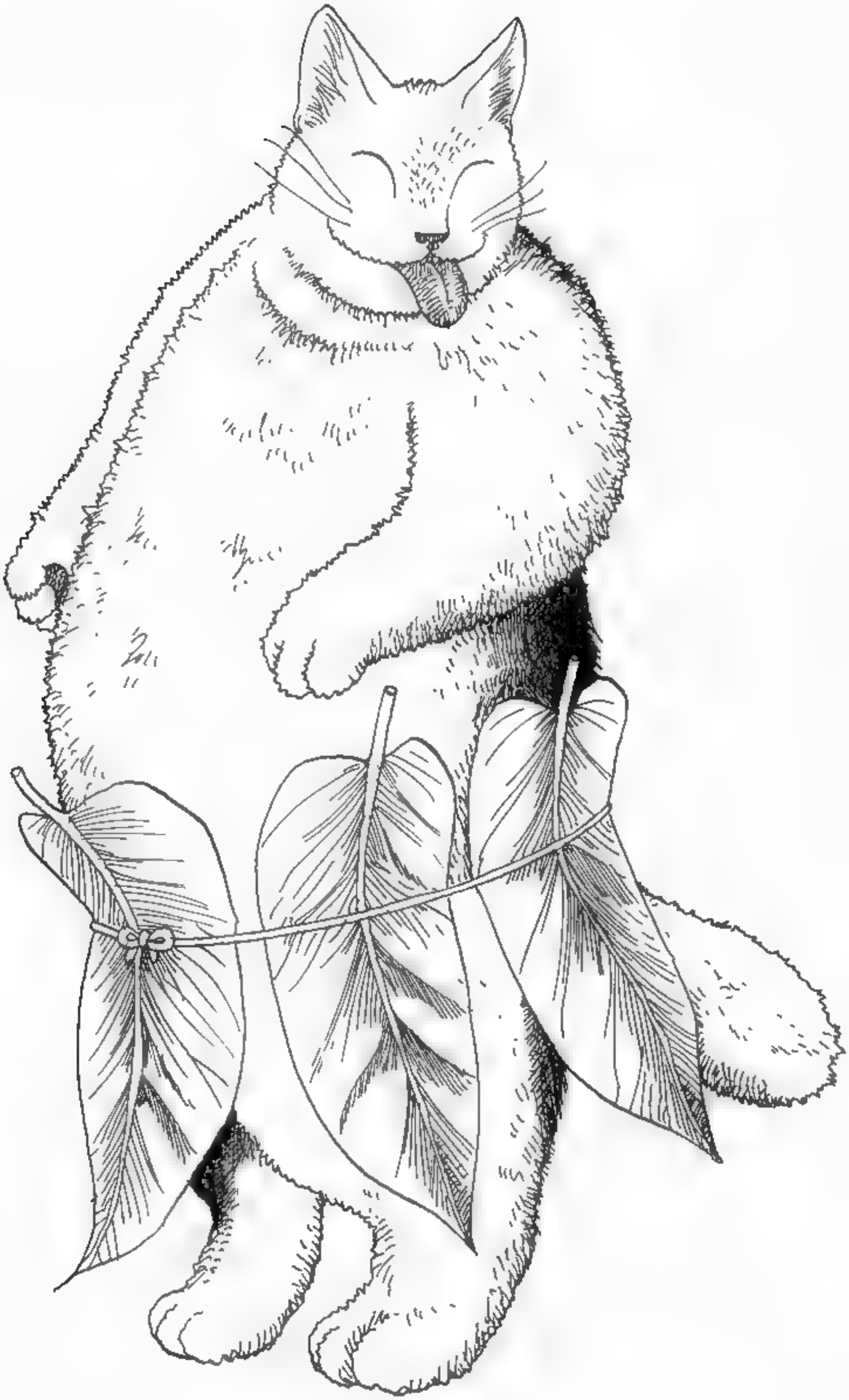


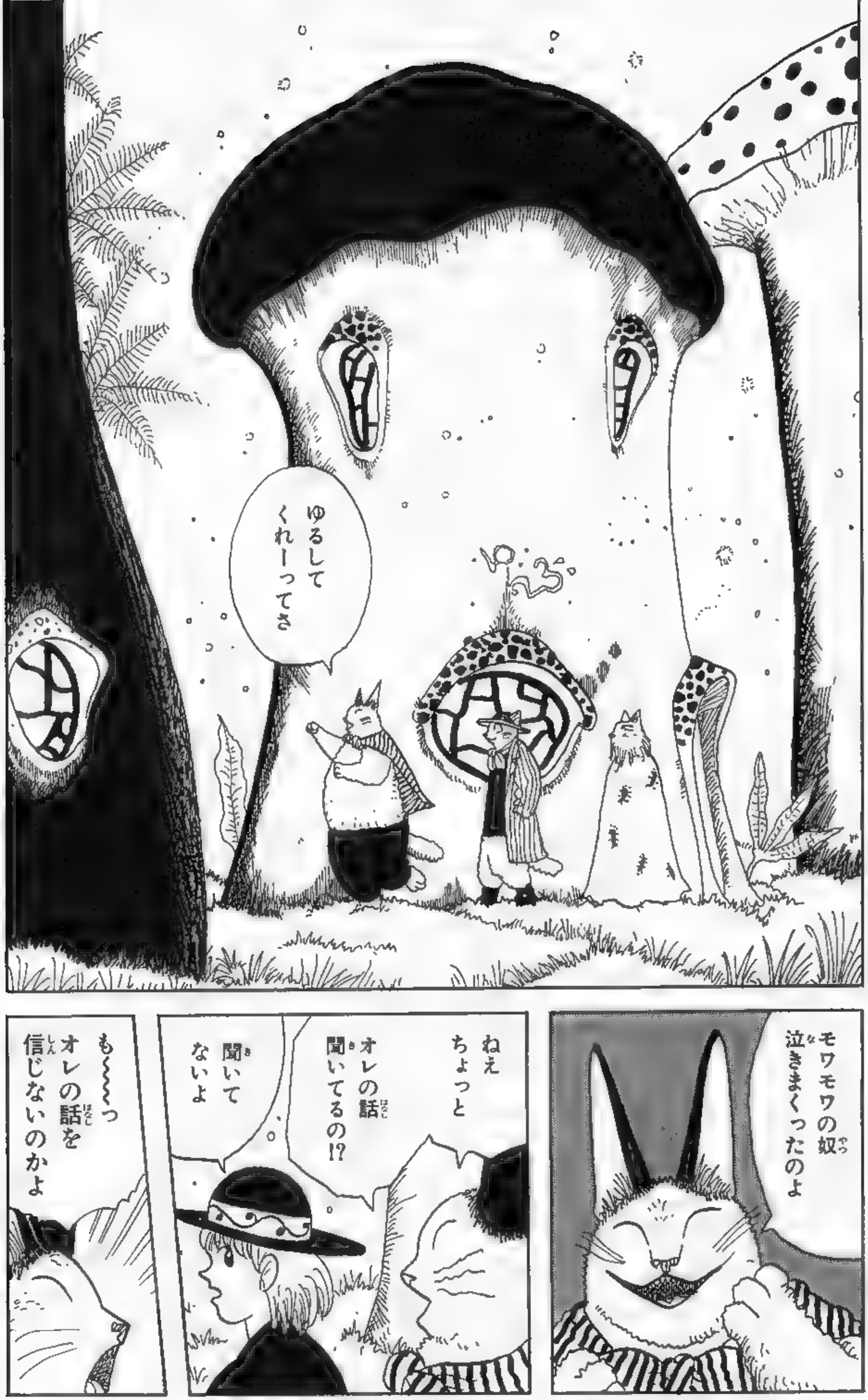
う
ペタッ
紅まぐろーっ
紅まぐろーっ
……
紅まぐろシカ頭ノ中ニナイ
フーム
どうも心配だなあ
ああ
心配無用ですじゃ
モワモワ様の前で静かにジッとしてればいいんだから


ジッとしているような奴ではないのです
ええたぶん棒きれをふり回してます
それじゃあ心の中を読まれてしまうのう
心の中を!?
そう…そして甘い誘惑をささやいてくるので
モワモワ様にとりこまれる奴もいるのだ
とりこまれる…
だがモワモワ様にとりこまれた奴はすぐに判ってしまう
なぜならそいつの耳は
あっヒデヨシ君
いえ——っモワモワをぶっ飛ばしてきたぜ


黒く長くなって
モワモワの奴泣いちゃってさあ

第八話　モワモワ　後編




ゆるして
くれーってさ
モワモワの奴
泣きまくったのよ
ねえ
ちょっと
オレの話
聞いてるの!?
聞いて
ないよ
も〜〜っ
オレの話を
信じないのかよ



いーから
ここに立って
見なよ
耳が
長くて
まっ黒
ら
なによコレッ
なんなのよーっ
モワモワ様に
とりこまれた
んじゃ
ドドン
とりこ
まれた?
おまえは
モワモワの
言いなり
なんだよ
心をうばわれた
わけさ


なんて言われたんだ？
紅マグロより もっと んまいもの あげます…かな
ギクッ
やっぱり食いもので釣られたのか
簡単な奴だな
おほほほ なんのことかしら
モワモワ様に会って とりこまれない者は いない
会ってくれただけで 約束ははたされたのだ
それでは こちらへ


約束の紅マグロ
たっぷりです
キャーーッ
マグロちゃーん
ひっさしぶりの
この重み
はぐっ
んっ
なんだか
あんまり味
しねーぞォ
味しない？
ウーム
お主なんか
食べて
こなかったか？
そういえば…


コレ
うっ
黄色天上
おおっ
これが
黄色天上かっ
なんですか
黄色天上って?
キノコの
王様じゃ
なかなか
見つからない
幻のキノコだよ
これ
んまいんだよ
モワモワの奴
いっぱい食わせて
くれたのさ
いっぱい!!
……うらやましい



あれっ
わっ　おまえっ
どうかしたのか?
耳が伸びてますよっ
こんなに長く伸びた奴なんて見たことないぞっ
どういうことなんだっ
じゃ　このマグロちゃんもらってくぜっ
うっ


なんだ
コレはっ
暗黒胞子に
やられた…
ええっ
あ〜〜〜っ
わっ
なによっ
コレッ
キエーーッ
テマリちゃん
テマリちゃんも
テンプラ君も
煙草屋の親父
みたいに
なるんですかっ
ああ…
もう
手おくれだ


あとは
ヒデヨシさんだけが頼みの綱
あの方にすがるしかない
アイツにすがる!!
おーーーい
モワモワ紅マグロ持ってきたぜ
紅まぐろ
ホウ
コレガ紅まぐろ
んまいんだぜ
食ってみなよ


フム…
魚ノ味ダナ
ナルホド…
アレ
オマエノ耳ズイブン伸ビタナ
ソンナニ長イ奴見タコトナイゾ
長いとどうなるのさ
うそつきホド長クナル
にゃーーん
ひでよし オマエおれガ怖クナイノカ
怖い？
なんで怖いのさ


デモ
手ツナイダラ
キット
だめダナ
ダメなわけ
ねーべよ
ほら
なっ
どうだ
どうってこと
ないだろ
ソウカナ
うわっ


なんだ〜〜っ
この目ん玉ーっ
コレハ
目ノ玉ジャナイ
「悲シミ」ダヨ



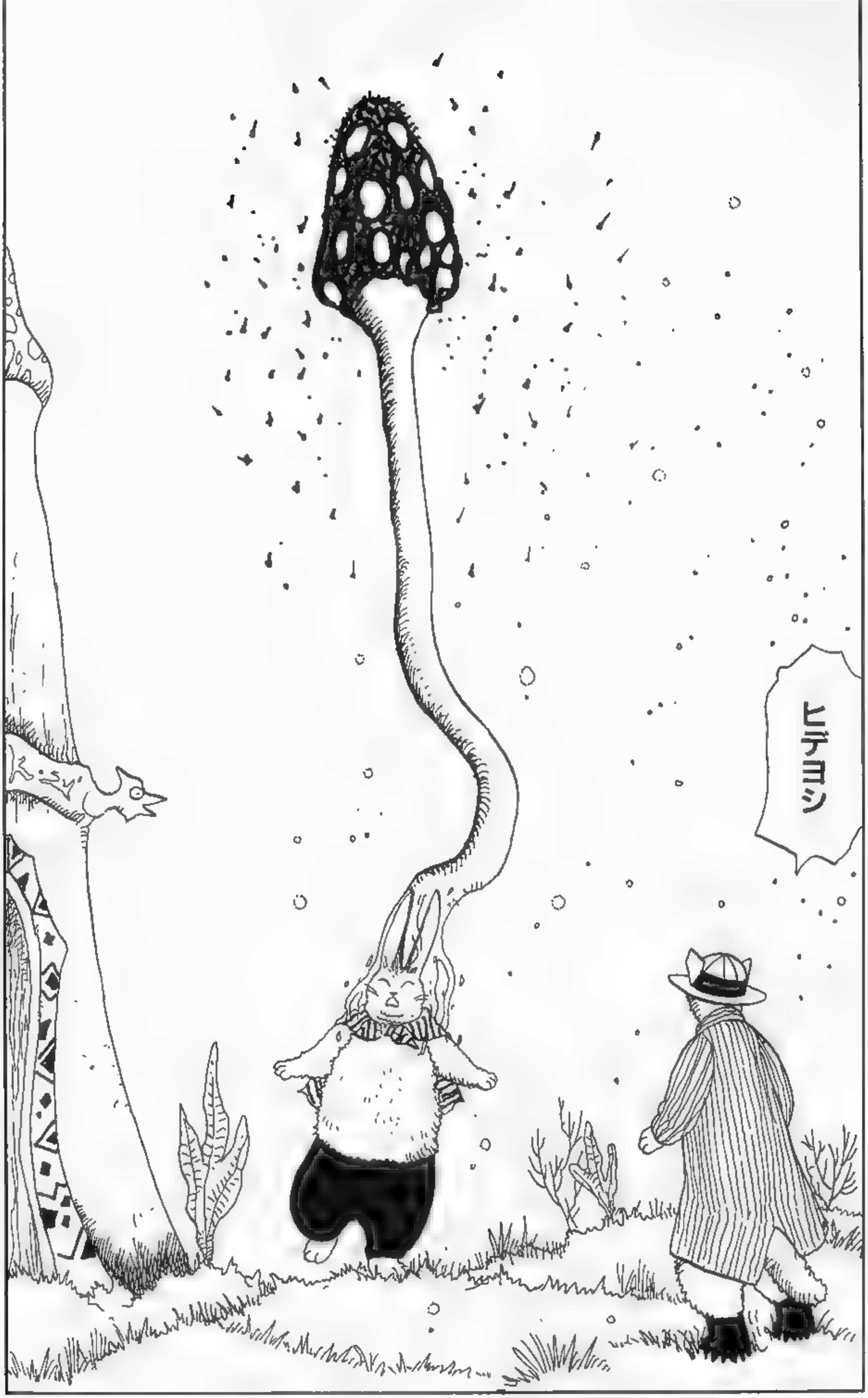
悲しみ？
コノ星ノドコカデ誰カ悲シンデルト
おれノ体ノ中ニソノ悲シミガヤッテキテ
ソレガ暗黒胞子ヲ作ルンダヨ
悲しみが…毒を作るのか
ソウダヨ
アレオマエ悲シクナイノカ
へっ？
悲しいって判んないぞ
悲しいってどんなもんなの？


悲シイッタラ…切ナクナル
胸ガ痛クナル……ドコカ寂シイ気持チ
さーっぱり判らん
オレは悲しくなんかなったことないのよォ
凄イ奴ダ
アア…コウシテルト
悲シミガヌケテイク
ほほほ なんかくすぐったいだけよ


コンナニ いい気持チハ 初メテダ
シカシ オマエッテ ほんとニ 凄イ奴ダナ
なんでだよ
!
あら そう
オマエノ体ニ 流レコンダ 悲シミガ
ミンナ 消エテイク
おほほっ 悲しみなんか どってこと ないのよーっ
んっ
あれ…


なんだっ
この気持ち…
涙が出て
くるぞっ
オオッ
すっきりシタ
イー気分
ああっ
にゃっ
なんだ
コレッ
おれト会ウノハ
ソレガ目的
ナンダロ
にゃあ


シカシ
ナンデ
コンナニ
吹キ出ルンダ
テンプラ君
も―――ダメ
ですねえ
わっ
これ
ヒデ丸
なんてこと
言うんだ
うう
ああ
私もあんな風に…
あっ


ヒデヨシ


ああっ
体からキノコが
生えてる
これ…
冬虫夏草
じゃないか
冬虫夏草？
いかにも
地中に眠る虫の
幼虫などに寄生して
成長する
冬虫夏草の
一種……
生き物の
心に寄生して
そだつ
ココロダケだ
心に寄生
する!?
ああ
今まで
何度か見たが



こんな巨大なのは初めてだ
それにしても凄い胞子ですね
あっ
ふれると なんかピリッとして
いい気持ちですよ
そうさ これを待っていたんだ
シュル
うう…
シュル


ああっ助かった
おっテンプラ
ああもどっていく
おおっ
煙草屋の親父助かったぞっ
うわーーっ
あれっヒデヨシどうかしたのか？
うう
悲しい…
なにが悲しいんだよ？


おまえの顔が悲しい
なんだと
青空が悲しい
キノコの匂いが悲しい
なんでもかんでもが悲しいのよォ
お主モワモワ様に会って なにをした?
手つないでくれつーから
ずーっと手つないでいたのよォ
手をつないでいた!!
そしたら急に涙が出てきてよォ


近づいただけで悲しみの菌が伝染るのに
ずっと手をつないでいただと!!
モワモワ様の体には世界中の悲しみが流れていると言われてる
それがお主に流れ込んだんだっ
世界中の悲しみ
モワモワ様は化け物だから耐えられるが
お主は無理だっ悲しみで巨大化するココロダケに食いつぶされるだろう
ううっ嫌だっ
オレはよォ
悲しみなんかと



アタゴオルは猫の森⑫ おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報はホームページ

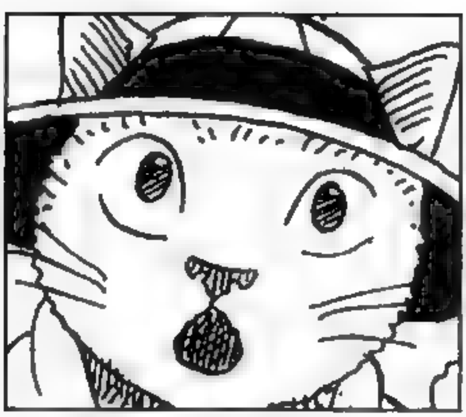
「ごろなお通信」

をご覧ください。

イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など

楽しみいっぱいです。

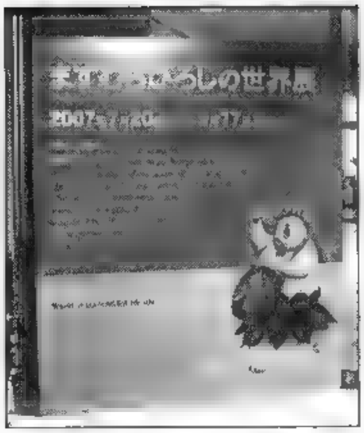
http://www.tiara.cc/~goronao/



アタゴオル余波12

ますむら・ひろし

この夏は、原画展の夏だった。白黒百枚、カラー百枚の二百枚の原稿が並んだ空間は、なかなかの迫力であり、七十年代初期の細密な絵から始まる自分の歩いてきた道の並びに、自分ながらフームと感じるものがあった。二カ月間の展覧会に、全国からたくさんの人たちが来てくれて、イベントとして二回のアコースティック・ライブと、公開対談として、よしもとばななさんに出演していただき、舞台より楽屋で盛り上がったりしていた。展覧会用の図録は開催期間途中で売り切れてしまい、感想ノートに、欲しい欲しいの声がたくさんあって、私はフエへへと嬉しかったのだが、この図録のなかに書いた私の文章は会場にもパネル張りで展示されていたため、これまた感想ノートに、「初めて、知りました」と、驚きの声となってアチコチに書かれていた。いったい何が書かれていたのか。それは「私の作品のカラーは、妻の増村昭子が、塗っている」というものだ。なにーっと、今ビックリした人もいると思う。だが何故そんなシステムになったのか。それを思い出すには、過去の時間をたぐりよせて、ボンヤリした記憶のカケラを眺めることになる。





私が高校時代にイラストレーターになりたいと思ったとき、好きな作家の山並みの一番高いところに横尾忠則さんがいた。その神経質なペン線の細やかさにシビレたのだが、もうひとつのショックは色彩感覚のケバい凄みだった。江戸川乱歩全集を米沢市立図書館の本棚から借りて読んだ時の、挿絵の色彩の凄さ。真っ赤な髪の毛、緑色の目玉、原色のドロドロさに、当時の私の心の鬱屈が反応してブルブ

ル震えた。それから数年の間、ペン画はせっせと描いたが、たまに色彩を塗ろうとすると、私の絵は塗れば塗るほど汚く重たくなっていき、自分でもどうしていいのか判らなくなるのだった。だが、しばらくしてトールキンの本『サンタクロースからきた手紙』を見た瞬間、私のなかで「そーかそーか」と色彩への気持ちが反応した。トールキンの色彩もまた、十分に「病んだ」色で、この病み具合こそが、彼に「遠方を見させる」チカラなのだと私は感じた。というわけで、髪の毛を緑色に塗ったり、目玉を真っ赤に塗ったりすることに快感を感じながら、塗ってしまうのだが、結局その絵をもてあまし、ちっとも気に入らず、ほとんど完成などしないのだった。

「ああ、色彩は、苦手だ…」。こんな状態の私が、朝日ソノラマから出た初の単行本、分厚いあの『アタゴオルは猫の森』のカラーを描くことになり、まず中に入っている口絵を描いた。それはトールキン風な感じで、色鉛筆で描いたものなのだが、これを見た担当が言った。

「お前、口絵はこれでいいから、表紙のカバーは、アコちゃんに描いてもらえ」。

アコちゃんと呼ばれていた妻はアニメーション学院卒で、当時は私より大量の漫画を『週刊少女コミック』に描いていて、カラーはお手の物。ほかに塗り絵ノートの仕事などもしてカラー表紙を描いたりしていたので、まさにプロの絵の出来栄えだった。こうして妻は担当に説得されて、色を塗ることになり、そうして出来たのがあのカバーだ。その後『ヒデヨシ印の万華鏡』のカバーと続き、彼女が色彩部担当になっていくのだが、しかしこの色彩部は、勝手に色を選び自由に塗れるのではなく、私がこんな感じと色の説明や指定をする。それが大筋の場合や細かい場合などいろいろあるが、そうした打ち合わせをして描かれていく。そうやって塗られたものを見てみると、いくら頭に描いても実際上がってくるものは感じが違ってたりして、気に入らなくて塗り直しにしたり、逆に凄くイイ出来だったりと、それはまるで陶芸の窯焼きのあがりを待っている気分みたいなのである。というわけで、ゴロニャオ工房の色彩部として、増村昭子は長年君臨してきたのでありますが、本来なら『詩画集』や『イーハトーブ波』の巻末で語るべきこうした事実を、ここで申し上げるとともに、どさくさながら、色

彩部への感謝の言葉とします。

それでは、本編の多少の裏話など、いたしましょう。

『コッパル』。表紙絵のスミレ博士の髪型、これはこの時の自分の顔を鏡に映して描いたもので、こんな風な髪をしていたのだ。物語にはゲホコンガ山という火山が出てくるし、その火山に埋まった廃墟が出てくる。この手の話となれば誰もがイタリアのナポリから見えるベスビオ山とポンペイを思い浮かべるだろう。火山好きの私としては、一度は行ってみたいポンペイなのだが、我が家ではよりによって火山好きでもなんでもない奥方がポンペイまで旅行してきて、お土産にポンペイ写真集を買ってきたのだ。ということで、今回のゲホコンガ山の山並みは、そんな写真をながめつつのベスビオ風となった。溶岩が吹き上げてやがて万華鏡になるわけだが、鉱物の成分を顕微鏡で見た画像の美しさ。この美しさが万華鏡の中で展開する画像を想像すると、断固見てみたくなる。鉱物のなかにある記憶、それを描こうとしたのだったが、烏賊（いか）銀河なんぞ描いて鉱物気分はなかなか難しいものだ。

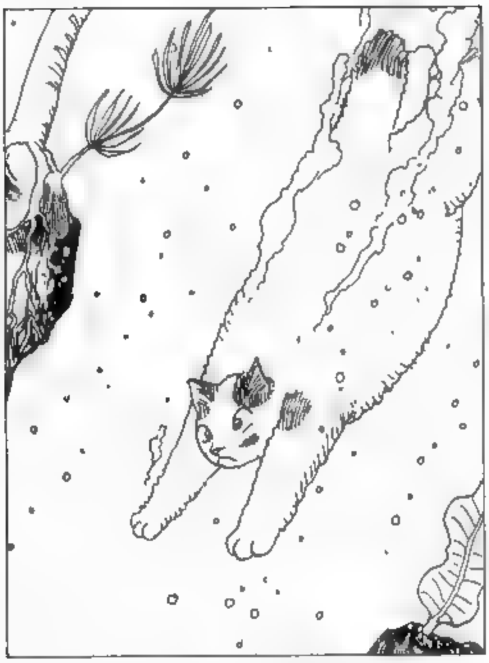


「ハリハリ蝸牛（カタツムリ）」。梅雨の季節になると、目に浮かぶのは紫陽花。そしてその葉っぱに乗っている蝸牛。こうした風景のうち一番古い記憶のものは、米沢の幼稚園時代のものだ。お寺のなかにある幼稚園には、沢山のお墓があり、本堂の周りには紫陽花が沢山あって、六月の雨やじめじめした湿気のなか、そこには大きな蝸牛がいたのだった。ヒデヨシがシュポシュポ食う蝸牛。スペインのアンダルシアの市場では、バケツのなかに食用の蝸牛がギッシ

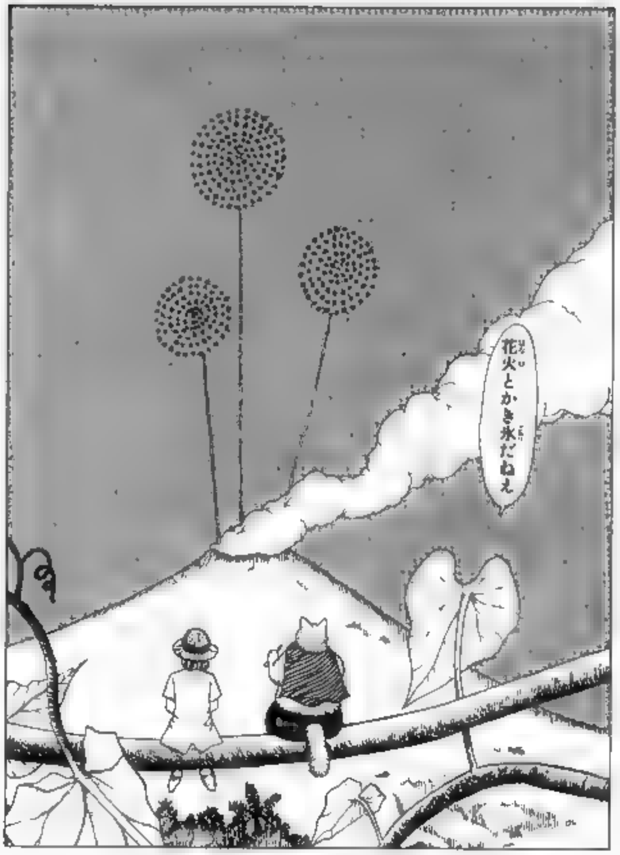


リいたし、バルセロナの商店ではオリーブ味になった蝸牛が売られていて、一度食べたがしょっぱくてオリーブとニンニクの味ばかり、肝心の蝸牛の味はわからなかった。雨でいっぱいの風景、この雨たちは、どこか異界へとつながっているような気配がする。

「三日月手風琴」。手風琴といっても、子供が小さいときに買ったオモチャのものしか知らない。だが手風琴の王様といえば、たぶんバンド・ネオンだ。アルゼンチンのブエノスアイレスのバーでみたタンゴ・ショー。そこで弾かれていたバンド・ネオンは、螺鈿の模様の入った素晴らしいもので、どうしても欲しくなり、楽器屋で見つけて買ったものは、骨董品のような迫力がある。カツラが弾いたものは、そのような種類のものではないが、今回この話を読んでいたら、カツラが裸で泳ぐ場面を見て、「アレレ、嘉助じゃないか…」と思った。宮沢賢治の『風の又三郎』を猫版で描いたときの嘉助くん。私はあの物語を読んで、嘉助が一番気に入ったのだったが、不思議なことに、ドラネコ団でも一番のお気に入りは、カツラなのであり、それはたぶん、かつて我が家で飼っていた本物のカツラへの気持ちが、嘉助にもそそがれたのだろう。カツラのなかには、なにかアドケナイ可愛らしさがあるのだ。



「ケムリン様」。今回、このあとがきを書こうとしてこの話を読乱して愕然とした。題名が『モワモワ様』。あれー、何このタイトル。何故ならこの作品を描いた翌々月の話で、私は怪物を登場させて、そいつの名前に「モワモワ」とつけて題名にしたのだ。何でそんなに「モワモワ」という語感が気に入ったのか判らないのだが、すでに火山の岩につけたのをスッカリ忘れている自分に、あせりまくった。ということで、この岩は改名させていただきます。さて、夏になると日本中で花火大会が開かれ、日本一を競うようにして大きな大会が行われるが、私にとって一番素晴らしいのは



そうしたものではなく、子供時代の米沢での、松川べりで開かれる花火大会だ。我が家は松川橋の近くにあったので、夕方から通りは混み出し、暗くなると一年一度の人ごみが起こり、そんななかで、二階の窓から見る花火は、どこか「ウチの花火」のような気さえして、なんとなく嬉しかったし、普段来ないクラスの子とかが通るだけで、不思議な気分になったりした。人でいっぱいの土手と、橋の欄干で立ち止まらないでくださいのアナウンス。あのザワザワした賑わいと点滅する花火、あれこそが私の思い出の花火なのだ。さてこの物語で花火を描きながら、ふっと山下清画伯の『長岡の花火』の絵が浮かんだ。貼り絵で作られた美しさ。しかし白黒の世界で花火の魅力を描くというのは難しい。私はベタの墨による丸点と、背景のスクリントーンの灰色で「まあ、こんなもんかなあ」と放置したら、ベタ・スクリントーン班の奥方が、「ホワイトも入れたほうがイイヨ」と言い出し、「ふっ、どんなもんかね。入れたきゃ入れてみれば」などと、いい加減なことを言っている主筆の後ろで、点々をいれて「どう」と見せられ、「おっ、いいじゃん、コレいいよ、ドンドン行きなさい」となったのでした。

「ガモンガ」。七月から始まった八王子市立夢美術館での展覧会。自分の絵を並べて見ていると、自分の背中を覗くような不思議な気分になりつつ、そんななかで、「絵を描く」ということを考えさせられたのだ



ろう。描きたいように描くこと、それが一番最初に誰もが子供のころにやったことなのに、いつのまにかそんな風には描けなくなり、まわりを気にしだし、他人と出来を比べて、喜んだり幻滅したりして、筆を取らなくなってしまう。ほんとうに、描きたいように描くことの、難しさを感じることが大人になるということの尺度なのかもしれない。だからこそ、ガモンガは胸のなかに成るのだ。

『モワモワ』。キノコをモチーフにした話を考えるとき、どうしても白土三平氏の不老長寿をテーマにしたシリーズのなかに出てきた冬虫夏草の話が忘れられない。蝉や蛾など地中に住む幼虫に寄生して成長するキノコ。それが不老



長寿の成分を持つというので探している子供。やがて大きな冬虫夏草をほかの人が見つけるのだが、掘り起こしたキノコの先にいたのはあの子供の死体だった、というもの。さてこの冬虫夏草の世界的権威が日本に住んでいたのだが、清水大典という方で、なんと私の故郷米沢に住んでおられたのでした。近年他界されてしまい、私はお目にかかることは出来なかったが、親戚などは「一緒に山で冬虫夏草採ったことあんのよう」と言っていた。さて今回の話、世界の悲しみに反応する怪物モワモワが出てくるのだが、普通なら悲しみなんか感じないはずのヒデヨシが、一度は感じてしまうとこが、自分でもオオッと思った。そしてさあて、それではどうなるのかなあと、作品の流れとともにやってくれば、やつは最後に「悲しみと、遊んでいるヒマはない」とわめくことになる。世界には悲しみがあふれ、泣き続ける人たちがいる。その悲しみはいろんな形で各自の胸にやってくるだろう。でもやっぱり、あんなに遊び好きのヒデヨシでさえ、悲しみとは遊んではいないのだ。そしてアチコチで何度も言われたあの言葉をヒデヨシ風に言うことになる。さあ、みなさん、御一緒にご唱和を。せーのっ。

「悲しみなんか、ぶちのめすのよおおお」。

(初出) コミックフラッパー 2007年5月号～2007年12月号

MFコミックス
フラッパーシリーズ

MFコミックス
アタゴオルは猫の森……………12

2008年1月31日 初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人……………松岡博治

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001 03-5469-4760(編集)

印刷・製本……………大日本印刷株式会社

ISBN978-4-8401-1987-0 C9979

寺沢武一
COBRA 全⑫巻 定価各750円
COBRA—MAGICDOLL—前後編 定価各1600円
COBRA—黒竜王— 定価1600円
COBRA ラグボール 定価1600円
GOKU 全③巻 定価1260円

小原愼司
二十面相の娘 全⑧巻 定価各540円

鷹木骰子＋菊地秀行
バンパイアハンターD ①巻 定価700円

岡本一広
トランスルーセント—彼女は半透明— 全⑤巻 定価各540円

中村嘉宏＋富野由悠季
オーバーマン キングゲイナー ①〜⑥巻 定価各540円

ますむら・ひろし
アタゴオルは猫の森 ①〜⑫巻 定価各540円

田代琢也
ナジカ電撃大作戦 全③巻 定価各540円
アトリ抄 ①〜⑥巻 定価各540円

山崎 健
あおくび大根 ①〜③巻 定価各700円

ヤマサキリエコ
はんなり豆腐 ①〜③巻 定価各893円





たぱり＋桑島由一
神様家族 ①〜④巻 定価各540円

菊地秀行＋シン・ヨンカン
退魔針 紅虫魔殺行 ①〜③巻 定価各540円

柳沼 行
ふたつのスピカ ①〜⑬巻 定価各540円

島崎 譲
関羽、出陣！ 定価540円

陳 某
火鳳燎原 ①〜⑥巻 定価各540円

末広
アレ国志 定価700円

大西巷一
曹操孟徳正伝 全③巻 定価各540円

鋼鉄三国志プロジェクト＋KYO
鋼鉄三国志 ①巻 定価580円

大羽 快
殿といっしょ ①巻 定価540円

BONES＋凛野ミキ
ストレンヂア 定価620円

霜月かいり
戦国BASARA—乱・世・乱・舞— 全③巻 定価各700円
BRAVE10 ①〜②巻 定価各540円





MFコミックス

フラッパーシリーズ